

チャレンジプロジェクトの自己評価 報告書

(令和3年度自己評価シート取りまとめ)

令和4年8月

仙 台 市

目 次

1 チャレンジプロジェクトの自己評価の概要	1
2 チャレンジプロジェクト 自己評価シート	
① 杜と水の都プロジェクト	
1 青葉山エリア魅力創出	4
2 グリーンインフラを活用した都心まちづくり	7
3 杜の都の景観を彩るみどりのまちづくり	10
4 交遊の海辺づくり推進	13
② 防災環境都市プロジェクト	
1 防災環境都市づくり推進	16
2 新型コロナウイルス感染拡大防止	20
3 防災・減災発信強化	21
4 消防体制強化推進	24
5 脱炭素都市づくり推進	27
6 資源循環都市づくり推進	29
7 都市交通戦略推進	30
③ 心の伴走プロジェクト	
1 インクルージョン推進	33
2 地域支えあいの基盤づくり	36
3 社会的自立支援	41
4 子どもの安全・安心確保	44
5 心を支える取り組み推進	48
④ 地域協働プロジェクト	
1 協働が生まれる基盤整備	50
2 地域づくりパートナーシップ推進	54
3 ユースチャレンジ推進	57
4 西部地区活性化	61
⑤ 笑顔咲く子どもプロジェクト	
1 挑戦する力を育てる学び推進	64
2 個性に応じた一人ひとりの学び推進	67
3 学校・地域・家庭の協働による学びや成長の環境づくり推進	70
4 切れ目のない子育て支援	73
5 子育て応援社会推進	79

⑥ライフデザインプロジェクト

- 1 多彩な学びと実践の環境づくり推進…………… 81
- 2 多様な主体の活躍推進…………… 85
- 3 ヘルスケア向上推進…………… 88

⑦TOHOKU 未来プロジェクト

- 1 ローカルイノベーション推進…………… 93
- 2 起業支援…………… 96
- 3 地域経済循環促進…………… 97
- 4 農業振興…………… 100
- 5 仙台・東北交流人口拡大…………… 104
- 6 仙台観光コンテンツ創出…………… 107
- 7 西部地区魅力向上推進…………… 110

⑧都心創生プロジェクト

- 1 都心のビジネス環境向上…………… 112
- 2 巡りたくなる都心の魅力づくり…………… 115

⑨市政運営

- 1 持続可能な都市基盤づくり推進…………… 121
- 2 公共施設経営推進…………… 123
- 3 公共インフラ災害対策…………… 126
- 4 ガス事業民営化推進…………… 130
- 5 人材育成機能・組織力強化…………… 131
- 6 デジタル化推進…………… 132

チャレンジプロジェクトの自己評価の概要

1 趣旨

仙台市実施計画（2021年度～2023年度：令和3年度～令和5年度）は、仙台市基本計画に掲げるまちづくりの理念、目指す都市の姿及びその実現に向けた施策の方向性に基づき、3年間に取り組む目標と施策を明らかにしたものであり、施策の着実な推進とともに実効性の確保に向けた取り組みが不可欠です。そのため、仙台市実施計画の進行管理については、施策目標の達成状況等にかかる評価・点検を毎年度実施し、その結果も考慮して、次年度予算への適切な反映に努めることとしております。

この度、仙台市実施計画に掲げるチャレンジプロジェクトについて、令和3年度における進捗状況の自己評価を行い、取りまとめました。

2 評価方法

仙台市実施計画「第2章 チャレンジプロジェクト」に位置づけた事業（156事業）について、令和3年度に実施した事業内容を整理し、項目ごとに「チャレンジプロジェクト自己評価シート」による評価を行いました。

3 各事業の進捗状況

各事業の進捗状況については、実施計画において定めた指標の達成状況や定性目標に向けた進捗状況を踏まえた自己評価を行い、下記のとおり、◎～×を付しています。

◎… 目標の達成に向け、予定を上回る成果があり、進捗状況が良好であると判断されるもの。

○… 目標の達成に向け、予定どおり進んでおり、進捗状況が順調であると判断されるもの。

△… 目標の達成に向け、一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れが生じていると判断されるもの。

×… 目標の達成に向け、予定どおり進んでおらず、進捗状況が遅れていると判断されるもの。

4 評価結果の概要

各事業は概ね「○」以上の評価となっており、全体としては計画どおり進捗しています。

※評価の概要は、次ページの表のとおりです。また、詳しくは各自己評価シートをご参照ください。

表 チャレンジプロジェクトの自己評価結果の概要

項目	自己評価結果を踏まえた総括	備考（○評価以外の事業）
①杜と水の都プロジェクト		
1 青葉山エリア魅力創出	全ての事業において着実に進捗した	
2 グリーンインフラを活用した都心まちづくり	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△: 勾当台公園再整備事業
3 杜の都の景観を彩るみどりのまちづくり	全ての事業において着実に進捗した	
4 交遊の海辺づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	◎: せんだい・アート・ノード・プロジェクト
②防災環境都市プロジェクト		
1 防災環境都市づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	◎: 成長産業振興事業
2 新型コロナウイルス感染拡大防止	事業は着実に進捗した	
3 防災・減災発信強化	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	◎: 防災意識の周知啓発強化事業 △(コロナ): 津波避難広報体制強化事業
4 消防体制強化推進	全ての事業において着実に進捗した	
5 脱炭素都市づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	
6 資源循環都市づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	
7 都市交通戦略推進	全ての事業において着実に進捗した	
③心の伴走プロジェクト		
1 インクルージョン推進	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△: 多様な性の理解促進・性的少数者支援事業
2 地域支えあいの基盤づくり	全ての事業において着実に進捗した	
3 社会的自立支援	全ての事業において着実に進捗した	◎: 生活困窮者自立支援事業 ◎: 青少年自立促進事業
4 子どもの安全・安心確保	全ての事業において着実に進捗した	
5 心を支える取り組み推進	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△: 自殺対策事業
④地域協働プロジェクト		
1 協働が生まれる基盤整備	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△(コロナ): ストック活用型都市再生推進事業
2 地域づくりパートナーシップ推進	全ての事業において着実に進捗した	◎: 「小さくても未来へつながる連携」促進事業
3 ユースチャレンジ推進	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	◎: 大学連携地域づくり事業 △: 学生の参加による地域づくり推進
4 西部地区活性化	全ての事業において着実に進捗した	◎: 生出地区活性化事業

※「△(コロナ)」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により数値目標を達成できず、事業の進捗に遅れが生じたなどの影響を受けた事業です。(8事業)「チャレンジプロジェクト自己評価シート」の進捗状況欄には「△コロナ」と表記しています。

⑤笑顔咲く子どもプロジェクト		
1 挑戦する力を育てる学び推進	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△(コロナ):新学習指導要領を踏まえた教育の充実事業 △(コロナ):仙台自分づくり教育推進事業
2 個性に応じた一人ひとりの学び推進	全ての事業において着実に進捗した	
3 学校・地域・家庭の協働による学びや成長の環境づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	
4 切れ目のない子育て支援	全ての事業において着実に進捗した	
5 子育て応援社会推進	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	◎:子育てに関する情報発信充実事業 △(コロナ):子どもの遊びの環境充実事業
⑥ライフデザインプロジェクト		
1 多彩な学びと実践の環境づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	【再掲】◎:せんだい・アート・ノード・プロジェクト
2 多様な主体の活躍推進	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△(コロナ):働く女性の活躍推進事業 △(コロナ):高齢者社会参加・生きがいづくり促進事業
3 ヘルスケア向上推進	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△:一般介護予防推進事業 △:六郷地区の健康づくり推進事業
⑦TOHOKU未来プロジェクト		
1 ローカルイノベーション推進	全ての事業において着実に進捗した	◎:経済産業政策推進事業
2 起業支援	事業は着実に進捗した	
3 地域経済循環促進	全ての事業において着実に進捗した	
4 農業振興	全ての事業において着実に進捗した	
5 仙台・東北交流人口拡大	全ての事業において着実に進捗した	
6 仙台観光コンテンツ創出	全ての事業において着実に進捗した	
7 西部地区魅力向上推進	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△:秋保地区交流人口拡大事業
⑧都心創生プロジェクト		
1 都心のビジネス環境向上	全ての事業において着実に進捗した	
2 巡りたくなる都心の魅力づくり	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により遅れが生じた事業がある他、一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した	△(コロナ):中心部商店街活性化促進事業 【再掲】△(コロナ):ストック活用型都市再生推進事業 【再掲】△:勾当台公園再整備事業
⑨市政運営		
1 持続可能な都市基盤づくり推進	全ての事業において着実に進捗した	
2 公共交通経営推進	全ての事業において着実に進捗した	
3 公共インフラ災害対策	全ての事業において着実に進捗した	
4 ガス事業民営化推進	事業に遅れが生じており、一層の対策を講じていく必要がある	△:ガス事業民営化推進事業
5 人材育成機能・組織力強化	事業は着実に進捗した	
6 デジタル化推進	事業は着実に進捗した	

※「△(コロナ)」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により数値目標を達成できず、事業の進捗に遅れが生じたなどの影響を受けた事業です。(8事業)「チャレンジプロジェクト自己評価シート」の進捗状況欄には「△コロナ」と表記しています。

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

① 杜と水の都プロジェクト

① 青葉山エリア魅力創出

目標	地域内外から人を惹きつける仙台の新たな魅力を創出するため、青葉山エリアにおいて青葉山公園などの整備を進めるとともに、全国都市緑化フェアの開催を契機として眺望空間づくりや広瀬川の活用を進めます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	青葉山公園(公園センター地区)整備進捗率	—	100% (令和5年度)	79.3%		
	広瀬川魅力創生ゴールドサポーター認定数	—	3件 (令和5年度)	3件		
	広瀬川創生・清流保全事業における重点事業の参加者満足度	—	80.0% (令和5年度)	100% (アンケート回答者)		
仙台城本丸跡の来場者数	58万人 (平成30年度)	60万人 (令和5年度)	27.5万人			

1 全国都市緑化フェア推進事業

担当:建設局

事業概要	都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及などを図ることにより、みどり豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として、青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川をメイン会場に、国内最大級の花とみどりの祭典である全国都市緑化フェアを令和5年度に開催します。		
年次計画	令和3年度 実行委員会 設立準備	令和4年度 実行委員会 設立	令和5年度 会場準備・開催準備 開催
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員会設立準備：9月に第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会設立会議を開催し、実行委員会が発足した併せて第1回総会を開催し、令和3年度事業計画及び予算について決定した（新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催） ○実行委員会設立：令和4年2月に第2回総会を開催（書面審議）し、実行委員会会則の一部改正と令和3年度予算の補正及び繰越、令和4年度事業計画及び予算について決定 		
評価の理由	事業は当初計画の通り、概ね順調に進捗した。引き続き、実施計画策定や会場準備・開催準備を進めていく。		

2 青葉山公園整備事業

担当:建設局

事業概要	「青葉山公園整備基本計画」に基づき、国史跡指定地区では歴史的な景観を充実させるとともに、追廻地区では(仮称)公園センターと広場整備を進めるなど、青葉山と広瀬川に囲まれた区域において市民や仙台を訪れた人が楽しむことができる公園整備を進めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	公園センター新築工事		
	追廻地区広場整備工事(公園センター地区)		
		公園センターの運営	
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○公園センター新築工事：令和4年3月に建屋完成（「仙臺緑彩館」に名称決定）</p> <p>○追廻地区広場整備工事（公園センター地区）：令和4年3月に公園センター地区施設整備（公園センター外構を除く）が完成</p> <p>その他の取り組みは以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月に3回目のマーケットサウンディング調査を実施し、3月に指定管理者募集要項等一式（案）をとりまとめた他、令和4年3月に未移転1区画の家屋調査を実施 		
評価の理由	公園センター新築工事が予定通り完成するとともに、追廻地区広場整備工事も順調に進捗した。		

3 広瀬川創生・清流保全事業

担当:建設局

事業概要	「広瀬川創生プラン」に基づき、広瀬川の豊かな自然環境の保全や安全安心な川づくり、そして新たな魅力の創出について、市民と協働で取り組みます。また、「広瀬川の清流を守る条例」に基づき、広瀬川の豊かな自然環境や景観などを保全します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	大橋周辺での親水施設設計	散策路など親水施設工事	親水施設を活用した市民イベントなどの活動支援
	各活動団体から広瀬川でのイベント情報などを集約し、本市が情報を発信		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○大橋周辺での親水施設設計：完了</p> <p>左岸（西公園側）：広場、散策路、花畑客土、せせらぎ水路</p> <p>右岸（青葉山公園側）：張芝、散策路、花畑客土</p> <p>○情報発信：広瀬川HP、広瀬川Instagram、本市HPを活用</p> <p>その他の取り組みは以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> 広瀬川創生プラン重点事業として広瀬川1万人プロジェクト流域一斉清掃（春は中止、秋は規模縮小で実施）、アイラブ広瀬川プロジェクト（広瀬川のためのスキルアップ講座、ヒロセガワプレーパーク）を実施 		
評価の理由	大橋周辺での親水施設設計については予定どおり進捗しており、情報発信や広瀬川創生プラン重点事業については、コロナ禍の影響によりイベントの減少や縮小があったものの、概ね順調に進捗した。		

4 仙台城跡整備推進事業

担当:教育局

<p>事業概要</p>	<p>歴史と趣を感じる城郭らしい景観と、来訪者が学びを楽しむことのできる環境を実現するため、城郭全体の景観を整備することで、歴史的な背景を踏まえた城郭内外からの眺望を実現します。また、発掘調査成果に基づく登城路整備を行うとともに、大手門の復元を目指し、関連する基礎調査と周辺部を含む範囲での発掘調査を実施します。</p>														
<p>年次計画</p>	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th style="width:33%;">令和3年度</th> <th style="width:33%;">令和4年度</th> <th style="width:33%;">令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">大手門復元関連基礎調査を含む各種調査の実施</td> </tr> <tr> <td colspan="3">植生調査、本丸縁辺地・東丸土塁の景観整備</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">東丸土塁の史跡整備</td> </tr> </tbody> </table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	大手門復元関連基礎調査を含む各種調査の実施			植生調査、本丸縁辺地・東丸土塁の景観整備				東丸土塁の史跡整備	
令和3年度	令和4年度	令和5年度													
大手門復元関連基礎調査を含む各種調査の実施															
植生調査、本丸縁辺地・東丸土塁の景観整備															
	東丸土塁の史跡整備														
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align:center;">○</p>														
<p>令和3年度の主な実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各種調査の実施：登城路・東丸土塁・扇坂下発掘調査、大手門復元関連基礎調査（史資料調査・大手門周辺地形測量） ○景観整備：植生修景整備に向けた現況植生調査、危険木の伐採 														
<p>評価の理由</p>	<p>当初予定していた事業は、一部が地震の影響で遅れたものの概ね順調に進捗した。なお、令和4年3月の地震被害による復旧工事やそれに伴う発掘調査を実施するため、今後はスケジュールに変更が出る可能性がある。</p>														

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

① 杜と水の都プロジェクト

② グリーンインフラを活用した都心まちづくり

目標	「杜の都」という言葉を体現する空間を都心に広げるため、その象徴である定禅寺通エリアにおける空間利活用などのまちづくりを推進するとともに、勾当台公園や西公園を再整備するなど、みどりが持つ多様な機能を日々の暮らしやまちづくりに生かしていきます。					
総括	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値 目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	定禅寺通における歩行者・自転車運転者通行量	12:00-13:00 725人 17:00-18:00 852人 (令和元年度)	基準値以上	12:00-13:00 523人 17:00-18:00 511人	/	/
	仙台都心部緑化重点地区内緑被率	14.2% (令和元年度)	基準値以上	14.3%	/	/
	仙台都心部主要路線緑視率	31.7% (平成26年度)	基準値以上	31.0%	/	/
	勾当台公園再整備基本計画策定進捗率	—	100% (令和4年度)	0%	/	/
西公園再整備進捗率	—	85% (令和5年度)	72.6%	/	/	

5 定禅寺通活性化推進事業

担当:まちづくり政策局

事業概要	「杜の都・仙台」の象徴である定禅寺通において、地元関係者などとともに、道路空間再構成やエリアマネジメントの導入なども視野にエリアの将来像を描き、エリアの魅力の創出につながるアクションなどを実施することで、まちなか全体の回遊性を高め、より一層多くの人を魅了する都市を目指します。														
年次計画	<table border="1"> <tr> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> <tr> <td>社会実験実施</td> <td>仙台市の方針策定</td> <td>具体的な事業実施</td> </tr> <tr> <td>まちづくり基本構想策定</td> <td>エリアマネジメント体制議論</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地域による主体的な利活用事業などの実施</td> <td></td> </tr> </table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	社会実験実施	仙台市の方針策定	具体的な事業実施	まちづくり基本構想策定	エリアマネジメント体制議論			地域による主体的な利活用事業などの実施			
令和3年度	令和4年度	令和5年度													
社会実験実施	仙台市の方針策定	具体的な事業実施													
まちづくり基本構想策定	エリアマネジメント体制議論														
	地域による主体的な利活用事業などの実施														
進捗状況	○														
令和3年度の主な実績	<p>○社会実験実施：8月20日～9月7日の19日間、車線規制を伴う大規模社会実験を定禅寺通活性化検討会と共催実施するとともに、空間活用ワーキンググループによる以下の社会実験を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LIVING STREET PROJECT（188日間）、定禅寺ストリートアライアンス（大規模社会実験と同時）、Green Activity（5回）、アートな街・定禅寺通（1回）、定禅寺通エリアブランディングプロジェクト（大規模社会実験と同時） <p>○まちづくり基本構想策定：令和4年3月に定禅寺通活性化検討会において「定禅寺通エリアまちづくり基本構想」を策定</p>														
評価の理由	<p>コロナ禍の影響で大規模社会実験期間中の空間利活用は縮小及び中止となったが、交通規制や各種調査は予定通り実施し、自動車交通への大きな影響はないこと、空間利活用で滞在者が増えたことなどの結果が得られた。また、空間活用ワーキンググループによる社会実験においては、実施回数の増加や新たな企画の実現が図られた。併せて、予定通りまちづくり基本構想が策定されるなど、順調に進捗した。</p> <p>令和4年度は上記を踏まえ、本市において定禅寺通の再整備に向けた方針を策定予定。</p>														

6 都心部みどりの回廊づくり事業

担当:建設局

事業概要	仙台駅を中心に半径2Km程度の圏内について、重点的に緑化を推進する地区と位置づけ、拠点となる公園の整備や道路緑化、公共施設の緑化により都市環境の改善やにぎわいに寄与する緑を創出します。また、緑化ガイドラインや助成制度により、民有地における質の高い緑化を推進し、みどりのネットワークを形成します。																							
年次計画	<table border="1"> <tr> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> <tr> <td colspan="3">仙台都心部緑化重点地区における質の高い緑化の誘導</td> </tr> <tr> <td>助成制度見直し</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築物等緑化ガイドライン策定</td> <td>ガイドラインによる質の高い建築物緑化の誘導</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">みどりの回廊の拠点となる公園の再整備・利活用の推進</td> </tr> <tr> <td colspan="3">街路樹の路線ごとの管理計画の策定、仙台駅東口エリアの改植</td> </tr> <tr> <td colspan="3">花による修景</td> </tr> </table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	仙台都心部緑化重点地区における質の高い緑化の誘導			助成制度見直し			建築物等緑化ガイドライン策定	ガイドラインによる質の高い建築物緑化の誘導		みどりの回廊の拠点となる公園の再整備・利活用の推進			街路樹の路線ごとの管理計画の策定、仙台駅東口エリアの改植			花による修景				
令和3年度	令和4年度	令和5年度																						
仙台都心部緑化重点地区における質の高い緑化の誘導																								
助成制度見直し																								
建築物等緑化ガイドライン策定	ガイドラインによる質の高い建築物緑化の誘導																							
みどりの回廊の拠点となる公園の再整備・利活用の推進																								
街路樹の路線ごとの管理計画の策定、仙台駅東口エリアの改植																								
花による修景																								
進捗状況	○																							
令和3年度の主な実績	<p>○質の高い緑化の誘導：総合設計や都市再生特別地区内等大型案件4件の緑化指導実施</p> <p>○助成制度見直し：グリーンインフラ推進助成事業の検討に着手、方向性をとりまとめ</p> <p>○ガイドライン策定：建築物等緑化ガイドライン（案）をとりまとめ</p> <p>○公園の再整備・利活用の推進：西公園再整備工事の実施、仙臺緑彩館建築工事完了、官民連携に向けたマーケットサウンディング実施（青葉山公園等）</p> <p>○管理計画の策定、仙台駅東口エリアの改植：街路樹管理計画策定に着手</p> <p>○花による修景：仙台駅前ペDESTリアンデッキ・定禅寺通緑地</p>																							
評価の理由	概ね予定通り進捗できており、引き続き建築物等緑化ガイドラインや緑化助成制度の見直し等を通じた質の高い緑化の推進、グリーンインフラの充実を図っていく。																							

7 勾当台公園再整備事業

担当:建設局

事業概要	「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」のほか、市役所本庁舎の建て替えなど、周辺で進む関連プロジェクトの内容を踏まえ、勾当台公園全体のあり方についての調査・検討、基本構想・基本計画の策定、整備工事に順次着手し、市内中心部の日常的なにぎわい・交流を創出する勾当台公園の再整備を進めます。		
年次計画	令和3年度 基本構想の策定	令和4年度 基本計画の策定 基本設計	令和5年度 実施設計
進捗状況	△		
令和3年度の主な実績	○基本構想の策定：有識者等で構成する「勾当台公園再整備検討懇話会」を年度内に2回開催し、基本構想素案をとりまとめ		
評価の理由	当初予定していた令和3年度内の基本構想策定に遅れが生じたが、令和4年4月には懇話会を開催し、その最終案をとりまとめた。		

8 西公園再整備事業

担当:建設局

事業概要	地下鉄東西線大町西公園駅の整備など、周辺の環境が大きく変化した西公園について、みどりの持つ多様な機能を最大限活用しながら、園路・多目的広場の整備など計画的な再整備を行います。		
年次計画	令和3年度 南側区域プール跡地における基盤整備・園路整備 トイレ設計	令和4年度 トイレ整備	令和5年度 広場などの整備
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○基盤整備・園路整備：既設構造物・土砂等の撤去及び既存樹木の伐採業務を実施 ○トイレ設計：設計業務を完了		
評価の理由	当初予定していた基盤整備・園路整備に一部遅れはあるものの、事業は概ね順調に進捗した。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

① 杜と水の都プロジェクト

③ 杜の都の景観を彩るみどりのまちづくり

目標	仙台らしく魅力的で居心地の良い景観形成を推進し、みどりに囲まれた環境をつくるため、都市空間の質の向上に向けて景観施策を推進するとともに、街路樹・公園のマネジメントや都市公園の整備を進めます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	景観計画や景観地区に基づく届出など対象行為の基準適合率	100% (令和元年度末)	基準値を維持	100%		
	都市公園における官民連携事業延べ実施件数	3件 (令和2年度)	5件 (令和5年度)	4件		
	都市公園におけるサウンディング調査実施件数	—	2回 (令和5年度)	1回		
	街路樹更新進捗率	—	13% (令和5年度)	— ※		
高砂中央公園整備進捗率	—	90% (令和5年度)	84.8%			

※令和5年度に更新事業を実施予定。

9 杜の都の風土を育む景観形成推進事業

担当: 都市整備局

事業概要	仙台らしく魅力的で居心地の良い景観形成を推進するため、「杜の都の風土を育む景観条例」や「仙台市屋外広告物条例」などに基づき、有効なオープンスペース創出のためのガイドラインや屋外広告物のためのガイドラインの作成、景観資源のさらなる保全・活用など、都市空間の質の向上のための景観施策を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	景観計画の改定	良好な景観形成の誘導	
	オープンスペースガイドライン作成、有効なオープンスペースの整備の誘導		
	屋外広告物ガイドラインの作成、優れた広告物の誘導		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○景観計画の改定：仙台市景観総合審議会を4回開催し、令和4年2月に中間案を策定後、パブリックコメントを実施 ○オープンスペースガイドライン作成、有効なオープンスペースの整備の誘導：景観計画改定内容に合わせガイドラインの検討を行い、令和4年1月の仙台市景観総合審議会に素案を提示 ○屋外広告物ガイドラインの作成、優れた広告物の誘導：施策の方向性を検討し、景観計画の改定中間案に当該内容を反映 		
評価の理由	各施策とも概ね予定通りに進捗した。令和4年度は、年度前半に景観計画の改定を行うとともに、引き続きオープンスペースガイドライン及び屋外広告物ガイドラインの検討を行う。また、地域の景観のシンボルとしてふさわしい建造物等の保全・活用に向け、景観資源の調査を開始し、都市空間の質の向上のための景観施策を推進する。		

10 公園マネジメント事業

担当:建設局

事業概要	既存の都市公園について、社会情勢を踏まえつつ、利用実態や地域性、住民ニーズなどの観点から公園機能を見直し、計画的にリニューアルを行うとともに、多様なパートナーと連携しながら公園資源を有効に活用し、公園の魅力向上、都市の魅力向上に向けた取り組みを推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	公園機能の見直しに伴うストック再編事業、ニーズに即した公園整備・再整備		
	PPP/PFI事業の推進、指定管理者制度の充実		
	施設情報の発信充実		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ストック再編事業、ニーズに即した公園整備・再整備：青葉区菊田山地区において、2つの公園の機能分担を目的とした再整備を実施 ○PPP/PFI事業の推進、指定管理者制度の充実：勾当台公園や荒井東地区、あすと長町地区にて、都市公園を活用した公民連携事業を継続的に行われた他、榴岡公園においては「仙台駅東まちづくり協議会」が主体となり、パークマネジメントの社会実験が行われた。また、各区有料運動施設を含む都市公園の指定管理者を募集した ○施設情報の発信充実：本市HPに都市公園一覧を掲載 		
評価の理由	継続事業の他、新たに、榴岡公園においてパークマネジメントの社会実験が行われた。また、本市HPに市民が利用可能な情報として都市公園一覧をダウンロード形式で掲載し、施設情報の充実を図ることができた。以上から、事業は概ね順調に進捗した。		

11 街路樹マネジメント事業

担当:建設局

事業概要	「杜の都」を象徴するみどりである街路樹が、都市景観形成や都市環境改善など、みどりの多機能性を十分発揮できるよう、街路樹の計画的な更新や維持管理を行い、都市の魅力ある資源として活用することで、都市ブランドの向上を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	街路樹健全度調査		
	街路樹管理計画の作成		街路樹管理計画の運用
	街路樹更新計画の作成	街路樹更新モデル事業の実施	街路樹更新事業の実施
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○街路樹健全度調査：各区において街路樹健全度調査を実施 ○街路樹管理計画及び街路樹更新計画の作成：路線別の「街路樹更新計画」を含む「街路樹管理計画」を策定することとし、業務に着手 		
評価の理由	約5,000本の街路樹の点検を実施した他、「街路樹管理計画」及び「街路樹更新計画」の作成にも着手できたことから、概ね順調に進捗しており、引き続き計画策定を進めていく。		

12 都市公園整備事業

担当：建設局、各区

<p>事業概要</p>	<p>防災・減災機能や良好な環境の構築、子どもの遊び場や市民の健康づくりのように、多様な機能を持つグリーンインフラとして、公園緑地の整備・再整備を推進します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>公園整備・再整備</p>			
<p>子育てや健康づくりに寄与する公園整備・利活用</p>			
<p>グリーンインフラの技術的要素を取り入れた公園整備ガイドラインの調査・検討・策定</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>	<p></p>	<p></p>
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○公園整備・再整備：住区基幹公園（地区公園、近隣公園、街区公園）37ヶ所の整備を進めた ○公園整備・利活用：子供未来局と連携し、子育て環境に寄与する公園の整備等について検討するとともに、健康遊具の設置などにより、市民の健康づくりを支える公園づくりを進めた ○公園整備ガイドラインの調査・検討・策定：グリーンインフラを活用した公園整備に関する資料収集、情報収集を実施</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>既存公園の再整備や土地区画整理事業地内などの公園整備を順次進めてきた。引き続き、地域特性やニーズを踏まえながら、公園整備を進めていく。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

① 杜と水の都プロジェクト

④ 交遊の海辺づくり推進

目標	東日本大震災から10年が経過した東部沿岸地域において、復興の次のステージを目指すため、様々な主体との協働による海浜エリアの活性化を推進するとともに、ふるさとの杜の再生や海岸公園の整備、集団移転跡地の利活用などを通じて、海辺の新たなにぎわいづくりに取り組みます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	東部沿岸地域の協議体への参加団体数	10団体 (令和2年度)	15団体 (令和5年度)	13団体		
	東部地域移転跡地利活用事業を開始した面積の割合	3% (令和元年度末)	100% (令和5年度)	45%		
	育樹に関するイベントやプログラムの実施回数	6回 (令和元年度)	基準値以上	7回		
荒浜地区におけるパークゴルフ場のホール数	—	27ホール (令和5年度)	23ホール			

13 海浜エリア活性化事業

担当：文化観光局、宮城野区、若林区

事業概要	東部沿岸地域において、東日本大震災の記憶の継承と発信を行うとともに、地域の豊かな自然など魅力ある資源を活用しながら、海辺のにぎわいづくりを進めます。また、集団移転跡地利活用事業者や地域住民・活動団体などと緊密に連携し、地域の特性を活かした魅力のネットワーク化など持続的な回遊性を高め海浜エリアの活性化を図る事業を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	各種リサーチの実施		交通資源実証実験
	地域住民・地域活動団体・防災集団移転跡地利活用事業者などとの連携		
	桜植樹、来訪環境の整備、「新浜みんなの家」「なかの伝承の丘」の活用・発信支援		
	ホームページ等による海辺の魅力の発信		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○各種リサーチの実施：海浜エリアの施設やイベント来訪者を対象に、来訪目的や交通手段についてアンケートを実施（8月9日～11月14日、回答者数533名）し、移動パターンや交通課題などを分析・把握 ○地域住民・地域活動団体・防災集団移転跡地利活用事業者などとの連携：地域を主体とする荒浜の海辺検討委員会と深沼の賑わい創出の検討を実施した他、新浜地区において、地元町内会によるグラウンド・ゴルフ場及び体験農園の運営支援を実施この他「仙台海手ネットワーク」において、コロナ禍での各参加団体の状況や課題、共同で行うイベント企画等について意見交換を3回実施 ○桜植樹、来訪環境整備、「新浜みんなの家」「なかの伝承の丘」活用・発信支援：蒲生北部地区での桜植樹、蒲生日和山付近へのトイレ新設のための設計、「新浜みんなの家」の施設ガイド板の設置などを予定通り実施 ○ホームページ等による海辺の魅力の発信：海辺の魅力を発信するHP作成に向けた素材やレイアウトの検討を実施 		
評価の理由	地域との連携を深めるとともに、多数のアンケートの回答を得ることができたなど、事業は概ね予定通りに進捗した。なお、アンケートの結果については、エリア全体の回遊性向上を目指し、令和5年度の交通実証実験などへの活用を予定する。		

14 東部地域移転跡地利活用推進事業

担当:都市整備局

事業概要	東日本大震災により被災した東部沿岸地域の防災集団移転跡地のうち、七北田川以南の南蒲生、新浜、荒浜、井土、藤塚の5地区について、民間の自由な発想や提案を最大限に生かした利活用を図り、地域の新たな魅力を創出していきます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	事業開始に向けた利活用事業者や関係部署との調整		
	地区計画の決定、公共施設の整備		
	東部沿岸地域の各施設との連携・情報発信		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○事業開始に向けた利活用事業者や関係部署との調整：6月から7月にかけて、新たに3事業者が事業を開始し、計12事業者が事業開始（面積割合で約45%） ○地区計画の決定、公共施設の整備：荒浜海水浴場線整備工事（8月完成）、井土荒浜線整備工事（9月完成）、荒浜地区公共利用ゾーン整備工事（令和4年2月完成）などを施行 ○東部沿岸地域の各施設との連携・情報発信：利活用事業者の農園で収穫した農産物の、他事業者マルシェでの販売などを実施 		
評価の理由	利活用事業を開始した面積の割合は約45%となり、概ね順調に進捗した。今後は、事業者未決定の区画で事業者選定を進めるとともに、関係部署との調整や必要な公共施設の整備を行うなど、事業開始準備中の事業者が早期に事業を開始できるよう支援に取り組む。併せて、東部沿岸地域の新たな魅力の創出に向けた関係者や各施設との連携を図る。		

15 ふるさとの杜再生プロジェクト

担当:建設局

事業概要	震災による津波により失われた東部地域のみどりを再生するため、公園整備に合わせて市民協働で植樹を実施するとともに、これまでに植樹を実施した海岸防災林については、育樹イベントや子ども向け参加プログラム、ほ場整備などを実施し、市民協働の取り組みを強化しながら育てていきます。また、農村風景を構成してきた居久根について、保全や再生支援に取り組めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	荒浜地区貞山運河、高砂中央公園、海岸公園藤塚地区での植樹		
	育樹イベントの開催		
	苗木育成用ほ場の整備		ほ場の運営・活用
	子ども向けの参加プログラムの実施		
	居久根の保全・活用と再生支援の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○植樹：荒浜地区貞山運河でサクラ47本を植樹したが、市民植樹会は令和4年3月発生地震により中止 ○育樹イベントの開催：育樹会を5回、市内高等学校の育樹体験会を2回実施 ○苗木育成用ほ場の整備：設計を実施 ○子ども向けの参加プログラムの実施：11月に1回実施（吉成小学校） ○居久根の保全・活用と再生支援の実施：現況確認の実施、枯損防止措置助成（1件） 		
評価の理由	地震の影響で市民参加による植樹は実施ができなかったが、その他の事業については、概ね順調に進捗した。今後は、子ども向け参加プログラムの拠点となる苗木栽培用ほ場の整備を進め、プログラムの充実を図るとともに、より多くの小学校での実施を目指していく。		

16 海岸公園整備事業

担当:建設局

事業概要	海岸公園の来場者がより安全で快適に利用できるように、パークゴルフ場の増設を進めるとともに、駐車場やトイレの整備、植栽を進めるなど、自然環境に配慮しながら海岸公園の運営・管理を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	パークゴルフ場整備、桜園路整備		
	各種施設整備		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○パークゴルフ場整備、桜園路整備：荒浜地区用地を取得 ○各種施設整備：休憩所周辺の外構及び芝生の整備は完了、藤塚地区基本計画策定に向けた検討を行った他、貞山運河周辺地域にぎわいづくり勉強会を開催 		
評価の理由	パークゴルフ場や各種施設整備用地の一部を取得することができ、事業は概ね予定通りに進捗した。		

17 せんだい・アート・ノード・プロジェクト

担当:教育局

事業概要	文化芸術に親しめる機会や、創造性を育み発揮できる機会を充実させるため、せんだいメディアテークを核に、現代アートの持つ発見性、吸引力、発信力を取り込みながらアートプロジェクトを展開し、まちの魅力と人々の活気を引き出します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	川俣正/仙台インプログレスの推進		
	今後の展開の検討・実施		
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○川俣正/仙台インプログレスの推進：平成29年度から新浜地区において、「みんなの船」、「みんなの木道」に続く「新浜タワー」を制作した他、これまでの制作プランを紹介する情報展示をせんだいメディアテークで開催 ○今後の展開の検討・実施：仙台の魅力を引き出し新たな価値を創造するアートプロジェクト実施のため、アーティストや地域関係者と連携しながら、今後の展開を検討した 		
評価の理由	川俣正/仙台インプログレスの館内情報展示では、多くの来館者へ事業の周知を行うことができた。オンライン企画「おうちで雑がみ部」の新たな立ち上げ及び普及啓発を目的とした冊子の作成、アーティストや文化人を招いて行うトークイベント企画では、オンライン配信をメインに実施し、感染症対策を行ったうえでのプロジェクトの新たな展開を模索しながら事業が実施できた。プロジェクトを通し新規協働者を迎えることができたことから、今後の新たな展開が期待できる。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

①防災環境都市づくり推進

目標	「杜の都」の豊かな環境を保全しながら、災害にも強い都市をつくるため、災害に対応する担い手の育成や震災メモリアル施設の活用、防災分野の新事業創出などを通じて、東日本大震災の経験と教訓の継承を図ります。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	防災環境都市づくりに関するステークホルダー育成事業の参加者数	4,000人 (令和元年度)	4,000人 (令和5年度)	3,800人		
	防災フォーラムなどへの参加者数	3,500人 (平成30年度)	3,500人 (令和5年度)	3,000人		
	せんだい3.11メモリアル交流館の来館者数	平均55,900人/年 (平成28～令和元年度)	60,000人 (令和5年度)	25,849人		
	震災遺構仙台市立荒浜小学校の来館者数	平均78,400人/年 (平成29～令和元年度)	80,000人 (令和5年度)	56,678人		
	せんだい3.11メモリアル交流館における他地域・他団体などの協力事業数	平均33.3件/年 (平成29～令和元年度)	30件 (令和5年度)	47件		
	3がつ11にちをわすれないためにセンターのウェブサイト閲覧数	平均2,173,000件/年 (平成30～令和元年度)	2,000,000件 (各年度)	3,009,896件		
成長産業振興事業を通じた新たな製品・サービスの開発件数	32件 (令和元年度)	合計54件 (令和3～5年度)	45件			
仙台版防災教育に関する防災主任研修回数	2回 (令和元年度)	基準値を維持	2回			

18 防災環境都市づくり推進事業

担当:まちづくり政策局

<p>事業概要</p>	<p>仙台防災枠組の採択都市として、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、日常生活に防災と環境配慮が織り込まれた防災環境都市づくりを進めます。また、それらの取り組みを国内外へ発信することで、選ばれる都市・誇れる都市を目指します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
	<p>防災環境都市づくりの施策や多様なステークホルダーによる取り組みの発信</p> <p>市民参加の防災フォーラムなどの継続的な開催</p>		
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○取り組みの発信：東日本大震災からの復旧・復興やまちづくりに係る様々な活動の歩みをまとめた冊子「つなぐ おもい つながる」を発行するとともに、仙台防災未来フォーラム内で市民向け講座「仙台防災枠組講座」を実施 また、「防災環境都市」を目指す本市の魅力や取り組みを新聞広告（4回掲載）やWEBサイトなどで発信する「防災環境都市キャンペーン」を実施 さらに、小学校～専門学校への出前授業を9回実施した他、東北福祉大学及び河北新報社と連携し「311伝える備える/次世代塾」を運営、講座などを15回実施 ○市民参加の防災フォーラムなどの継続的な開催：仙台防災未来フォーラム2022を開催（参加者数約3,000人）</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>オンラインを活用するなどの工夫により、事業は概ね計画通りに進捗した。特に、仙台防災未来フォーラムの開催にあたりオンラインを活用し開催したことで、安定的な来場者につながった。 引き続き計画達成に向け事業に取り組む。</p>		

19 震災復興メモリアル事業

担当:まちづくり政策局、教育局

<p>事業概要</p>	<p>東日本大震災の経験と教訓を継承するため、せんだい3.11メモリアル交流館・震災遺構仙台市立荒浜小学校・震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎の運営、中心部震災メモリアル拠点の整備推進、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」などにおける震災に関する記録の収集・保存・活用などに取り組みます。</p>																										
<p>年次計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="450 418 803 465">令和3年度</th> <th data-bbox="803 418 1155 465">令和4年度</th> <th data-bbox="1155 418 1508 465">令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 472 1508 512"> <p>せんだい3.11メモリアル交流館の運営</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 512 1508 552"> <p>震災遺構荒浜小学校・荒浜地区住宅基礎の運営</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 552 1508 592"> <p>中心部震災メモリアル拠点検討</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 592 803 632"> <p>職員間伝承プログラムの構築</p> </td> <td colspan="2" data-bbox="803 592 1508 632"> <p>職員間伝承プログラムの運用</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 632 1508 672"> <p>3がつ11にちをわすれないためにセンターの運営</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 672 1508 712"> <p>歴史的公文書の保存</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="450 712 1508 752"> <p>国や被災自治体などと連携した経験や教訓の発信</p> </td> </tr> </tbody> </table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	<p>せんだい3.11メモリアル交流館の運営</p>			<p>震災遺構荒浜小学校・荒浜地区住宅基礎の運営</p>			<p>中心部震災メモリアル拠点検討</p>			<p>職員間伝承プログラムの構築</p>	<p>職員間伝承プログラムの運用</p>		<p>3がつ11にちをわすれないためにセンターの運営</p>			<p>歴史的公文書の保存</p>			<p>国や被災自治体などと連携した経験や教訓の発信</p>		
令和3年度	令和4年度	令和5年度																									
<p>せんだい3.11メモリアル交流館の運営</p>																											
<p>震災遺構荒浜小学校・荒浜地区住宅基礎の運営</p>																											
<p>中心部震災メモリアル拠点検討</p>																											
<p>職員間伝承プログラムの構築</p>	<p>職員間伝承プログラムの運用</p>																										
<p>3がつ11にちをわすれないためにセンターの運営</p>																											
<p>歴史的公文書の保存</p>																											
<p>国や被災自治体などと連携した経験や教訓の発信</p>																											
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align: center;">○</p>																										
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○せんだい3.11メモリアル交流館の運営：コロナ禍での閉館期間などの影響もあり、来館者数は減少傾向にあるものの、他の地域・団体などに対する活動の場の提供や情報発信などを通じた、多様な主体の交流促進を図った結果、協力事業数は目標値を上回った ○震災遺構荒浜小学校・荒浜地区住宅基礎の運営：コロナ禍で近県小学校からの来訪が見送られたこともあったが、引き続き案内などの取り組みを継続し、来館者数は前年度比2割程度に回復 ○中心部震災メモリアル拠点検討：中心部震災メモリアル拠点検討委員会報告書に基づき立地場所などの検討を進め、令和4年2月、青葉山交流広場に音楽ホールと複合整備する方針を公表した ○職員間伝承プログラムの構築：職員間伝承プログラムの目的や方法をまとめた「職員間伝承ガイドブック」と個別学習用「eラーニング教材」、グループで見識を深める「対話型ワークシート教材」を作成し庁内に公開した また、「震災エスノグラフィー調査」として、震災後対応にあたって職員の経験を聞きとり、研修用テキストや映像として庁内に公開した ○センターの運営：市民・専門家などとの協働で震災に関する記録を収集し、新たに映像516本、写真3,309枚、音声69本のデータを公開 また、震災からの歩みを写真や映像で振り返る企画展「星空と路」を令和4年3月からせんだいメディアテークにて開催（令和4年4月まで） ○歴史的公文書の保存：東日本大震災からの復興に関する公文書が保存期限を迎えるため、公文書館設置準備室に移管を行った ○経験や教訓の発信：「震災伝承ネットワーク協議会」及び「一般社団法人3.11伝承ロード推進機構」を通じ、被災各地域の経験や教訓の共有・発信を行った他、「震災伝承施設」として2施設を追加登録した 																										
<p>評価の理由</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設の来館者数は基準値に達していないものの、多様な主体の交流促進を図った結果、せんだい3.11メモリアル交流館における他の地域・団体などの協力事業数が目標値を上回るなど、事業全体としては概ね順調に進捗している。なお各施設では、感染症流行前に計画通りの集客ができていたことから、終息後は来館者数の回復を見込む。</p>																										

20 成長産業振興事業

担当: 経済局

事業概要	産学官金連携の枠組みを活用し、AI やIoT、ロボットなどの先端技術と、今後市場の拡大が見込まれる健康福祉、農林水産業、防災分野などの融合による新事業創出を推進するとともに、ICT産業の振興や高度ICT人材の育成・確保に取り組み、地域経済の活性化を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業の実施		
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<p>○BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業の実施：産学官が参画するプラットフォームを令和4年2月に設立、国内外の企業が参加する事業開発プログラム・ビジネスマッチング、実証実験支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム会員数：85（令和4年3月31日時点） ・本事業を通じた製品・サービス開発件数：15件 ・実証実験等の事業化支援件数：4件 		
評価の理由	プラットフォームを予定通り立ち上げ、想定以上の会員企業・団体に参画していただいた他、事業開発プログラムや実証実験支援において、危機管理局やまちづくり政策局など他局とも連携しながら事業を実施し、事業者にとって効果的な支援を行うことができた。		

21 仙台版防災教育推進事業

担当: 教育局

事業概要	児童生徒が災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、平常時から災害に備え、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる自助の力を育むとともに、平常時から進んで他の人や地域の力となれる共助の意識の育成を図るため、仙台版防災教育推進事業を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	学校の実情や児童生徒の実態を踏まえた仙台版防災教育の推進 研究推進取組発表会 実践ガイド改訂の検討 震災遺構仙台市立荒浜小学校の活用		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○仙台版防災教育の推進：全市立小・中学校において、学校や地域の特性及び児童生徒の発達の段階を踏まえ、各教科などの防災に関わる指導内容を相互に関連付けた年間指導計画を作成し、教育活動を展開</p> <p>○研究推進取組発表会：5グループの分科会によるオンライン形式で、28校の研究推進取組発表校の成果と知見を全市立学校で共有し、各学校の防災教育年間指導計画を改善</p> <p>○震災遺構仙台市立荒浜小学校の活用：市立小学校34校が、震災時の状況や津波の脅威、震災からの教訓などの学びを深めた</p>		
評価の理由	コロナ禍により計画変更等があったが、事業は概ね順調に進捗している。今後は、震災を経験していない児童生徒及び教職員が多くなっていることを踏まえ、全市立小学校が「震災遺構仙台市立荒浜小学校」活用学習を実施し、震災の教訓や記憶の風化を防止する学習の推進を図る。また、児童生徒の防災対応力の更なる育成に向け、仙台版防災教育実践ガイドの改訂を検討し、各学校における防災教育の推進を図る。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

②新型コロナウイルス感染拡大防止

目標	世界中で蔓延する新型コロナウイルス感染症に対応するため、相談体制や宿泊療養施設などの感染症医療提供体制の確保に向けた取り組みを推進するとともに、ワクチンの接種体制を整えます。					
総括	事業は着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	新型コロナ仙台市感染制御地域支援チーム会議等開催回数	—	12回 (各年度)	53回		

22 新型コロナウイルス感染拡大防止事業

担当:健康福祉局

事業概要	世界中で猛威を振るい、本市の市民生活と地域経済にも深刻な影響をもたらしている新型コロナウイルス感染症に対し、医療機関のネットワーク強化や医療提供体制の整備を行うほか、市内の患者発生状況等を正確に発信するとともに、ワクチン接種の円滑な実施に取り組みます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>感染症に関する情報発信</p> <p>受診・相談センター、帰国者・接触者相談センター対応</p> <p>重症者・中症者の病床確保</p> <p>検査体制の充実</p> <p>広域的な医療体制の整備</p> </div> <div style="width: 65%; text-align: right;"> </div> </div>		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症に関する情報発信：患者発生状況を毎日記者発表するとともに、感染状況について週毎・月毎にとりまとめ、週毎に記者発表を行った他、とりまとめた内容を本市HPに掲載 ○センター対応：24時間受付の受診・相談センターにおいて、心配な症状のある方などの相談を毎日120～130件受付 ○重症者・中症者の病床確保：宮城県と緊密に連携し、毎日、重症患者・中等症患者を含めた入院病床の確保および入院が必要な患者の入院調整を実施 ○検査体制の充実：本市独自の臨時検査場を開設するとともに、仙台市医師会、市内病院、宮城県との連携により行政検査を実施した他、新たに検体容器の自宅搬送による検査を開始し、行政検査体制の充実を図った ○広域的な医療体制の整備：宮城県と連携し、仙台医療圏を含む県内の入院協力医療機関などへの患者の入院調整を実施した他、宮城県及び県外各自治体と連携した県域を超えた患者対応を実施 また、円滑なワクチン接種に向け仙台市医師会や各医療機関、関係機関と協力・連携し、初回接種（1・2回目）や追加接種（3回目）を実施 		
評価の理由	日々状況が変化する中でも、医療機関のネットワークの強化や感染発生状況の正しい発信などを上記実績記載のとおり行うことができた。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

③防災・減災発信強化

目標	防災・減災に向けた意識を向上するとともに、災害時の情報が行きわたる環境をつくるため、津波避難広報体制や緊急情報の伝達体制を強化するとともに、普及啓発を継続的に実施するなど、防災・減災体制の強化を推進します。					
総括	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	津波避難広報範囲	—	100% (令和5年度)	— ※	/	/
	IP無線の整備状況	—	790台 (令和5年度)	800台	/	/
	津波情報伝達システム屋外 拡声装置伝達エリアのカバー率	—	150% (令和5年度)	119%	/	/
	防災に関する住民説明会の 開催回数	66回 (令和元年度)	基準値以上	103回	/	/
体験型防災学習機能利用者 数	7,700人 (令和元年度) ※地震体験車の年間 体験者数	21,000人 (令和5年度)	1,802人	/	/	

※津波避難広報体制強化事業において、コロナ禍に伴う世界的半導体不足の影響により、やむを得ず津波非難広報ドローンの整備完了時期を令和4年9月に延期したため、実績把握の前提条件が整わなかったもの。

23 津波避難広報体制強化事業

担当:危機管理局

事業概要	東部集団移転跡地の利活用などにより、地域外からの来訪者の増加が見込まれる東部沿岸地域において安全と安心を確保するため、大津波警報などの発表と同時に離陸し、完全自動で避難広報や情報収集を行う津波避難広報ドローンを整備し、津波避難広報体制の強化を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	津波避難広報ドローンの整備	津波避難広報ドローンの運用	
進捗状況	△コロナ		
令和3年度の主な実績	○津波避難広報ドローンの整備：4月よりドローンの整備を開始し、令和4年1月にはプライベートLTE通信網の整備が完了		
評価の理由	コロナ禍に伴う世界的な資材不足などにより、ドローン機体（海外製）の納入遅延が発生し、当初予定していた年度内の全体整備完了が困難となった。導入するドローンを国産機2機に変更し、整備完了時期を令和4年9月に延期した上で、整備を継続することとした。		

24 災害時情報伝達体制強化事業

担当:危機管理局

事業概要	災害時に、情報弱者に対して緊急情報を確実に伝達するとともに、情報伝達手段を多重化するため、緊急情報の発信や避難所・区役所への通信機能の整備など、情報伝達体制の検討と強化を進めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	一斉電話発信システムの導入・運用		
	津波情報伝達システムへの高性能スピーカーの導入		
	高機能な通信サービスの導入の検討		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○一斉電話発信システムの導入・運用：携帯電話などを所有していない世帯を対象に、8月より、登録した自宅の固定電話に自動音声で避難情報などを発信するサービスを開始 ○津波情報伝達システムへの高性能スピーカーの導入：電波法の改正や耐用年数超過に伴う機器更新に併せて、計画7基中6基を高性能スピーカーに更新。残る1基の更新は施工場所都合により令和4年度に延期 ○高機能な通信サービスの導入の検討：IP無線の運用を開始		
評価の理由	事業は概ね予定通り進捗した。なお、IP無線運用で明らかとなった課題や改善点を整理し、次期通信サービス導入時の発注仕様に活かす予定。同時に、新サービスや他都市の先進的な導入事例についても情報収集を図る。		

25 防災意識の周知啓発強化事業

担当:危機管理局

事業概要	防災冊子の配布やGISデータの公開、住民説明会の開催など各種媒体機会を活用するとともに、ハザードマップの公開などを通じて災害時に自らの命を守る行動がとれるようにするための防災情報の普及啓発を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<p>○防災情報の普及啓発：地域説明会20回、防災講話など83回、計103回開催</p> <p>○電子媒体の活用促進：仙台防災ハザードマップについて、避難行動に関する防災情報などを拡充して発行し本市HPに掲載した他、地域説明会などで電子媒体の活用を呼びかけた</p> <p>また、新たに風水害に備える「マイ・タイムライン」作成講座を開催するとともに、「マイ・タイムライン」の必要性や作成手順を解説した映像コンテンツを作成したことに加え、市民の防災意識向上を目的に、事前の備えや避難行動などを啓発する「おりはらアドバイザーの3分間防災ちゃんねる（せんだいTube）」の動画を定期的に作成し公開した</p>		
評価の理由	防災情報の普及啓発において、目標値以上の回数の活動を実施できた。また、電子媒体の活用促進も順調に進捗した。今後も、映像コンテンツを活用して事前の備えや避難行動の啓発を図り、災害時に市民の命を守るための取り組みを一層進めていく。		

26 体験型防災学習機能の充実強化事業

担当:危機管理局

事業概要	市内の各地域において、様々な年代や立場の市民が災害の疑似体験を通じ、災害への備えの重要性を認識できる機会を作り、自助・共助による取り組みを推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○地震体験車による体験型防災学習の実施：体験型防災学習機能利用者数1,802人</p> <p>○地震体験車に代わる体験型防災学習機能の導入：新たな体験型防災学習機能として、VR（バーチャルリアリティ）技術により各種災害を再現し、疑似体験できるコンテンツを整備</p> <p>また、災害疑似体験を通じ、地域の災害リスクと備えの重要性を把握し、活用する「マイ・タイムライン」作成ガイドの導入を図った</p>		
評価の理由	感染症の影響により、地域や事業所などにおける地震体験車の運用は以前より減少したが、耐用年数を迎えた地震体験車に代えて「災害VR」を新たに整備し、地震や風水害など、複数の災害種別に応じた体験コンテンツを導入できた。今後は、「災害VR」運用についての環境整備を行い、より実践的な防災学習を行うツールとして円滑な地域展開が図れるよう取り組みを進める。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

④消防体制強化推進

目標	安全・安心な日常生活を送ることができる環境をつくるため、消防団の充実強化や救急需要の増加に応じた体制整備、地域密着型の防火防災意識の普及啓発や地域防災力の向上など、消防体制の強化を推進します。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	消防団防火衣の更新配備数	117着 (令和元年度)	100着 (各年度)	100着	/	/
	消防団保安帽の更新配備数	—	400個 (各年度)	400個	/	/
	(仮称)デイトタイム救急隊の導入数	—	1隊 (令和4年度)	— ※	/	/
	幼児・児童を対象とした指導育成人数	平均4,000人/年 (平成28年度～令和2年度)	基準値以上	2,926人	/	/
	婦人防火クラブ訓練・研修などの参加人数	平均9,000人/年 (平成28年度～令和2年度)	基準値以上	2,970人	/	/
熱画像直視装置の配備数	—	26機 (令和5年度)	8機	/	/	

※令和3年度は導入に向けた体制整備を実施（予定通り令和4年4月に運用開始）。

27 消防団充実強化事業

担当: 消防局

事業概要	「消防団活性化五ヶ年計画」に基づき、消防団員が長く活躍できる環境を整備するとともに、消防団の魅力や地域への理解を深める広報活動の重点的な展開、消防団員が安全に活動するため資機材の充実などを図り、消防団員の入団を促進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	消防団ロゴマークの作成	消防団ロゴマークの活用	
	学生や女性の団員など様々な属性に合わせた研修の実施		
	集中的な募集活動やSNSを活用した広報活動の実施		
	資機材の充実強化、装備・施設などの環境整備		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○消防団ロゴマークの作成：被服等デザイン検討会を立ち上げ、事前アンケート2回、検討会3回を開催し、市内7つの消防団のロゴマーク及び共通デザインのロゴマークを作成した</p> <p>○様々な属性に合わせた研修の実施：幹部団員、女性団員及び学生団員研修を実施した</p> <p>○広報活動の実施：消防団活動などについてSNS（フェイスブック、せんだいTubeなど）により発信するとともに、消防団アピール月間（令和4年1月～2月）では、各団でPRイベントを企画するなど、集中的な広報活動を実施した</p> <p>○資機材の充実強化、環境整備：新仕様の保安帽を宮城及び秋保消防団に配備するとともに、新仕様の小型動力ポンプ付積載車（4WD）3台と小型動力ポンプ付積載車（2WD）3台を更新・配備した</p>		
評価の理由	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、女性団員及び学生団員研修を自主研修とするなどの影響は生じたものの、事業は概ね順調に進捗した。</p> <p>今後は、消防団ロゴマークを活用した消防団の各種PR活動を実施する他、引き続き、属性に合わせた研修、資機材・装備・施設等の整備を行い消防団の充実強化を図る。</p>		

28 市民ニーズに対応した救急体制推進事業

担当: 消防局

事業概要	救急車を必要とする市民ニーズに対応するため、救急要請が特に多い日中時間帯に運用する「(仮称)デイトタイム救急隊」を導入するとともに、病院選定時間と搬送時間を短縮させるための各種システムの安定運用を行います。また、市民が救急要請を行う判断の一助となるよう救急車適正利用の広報・啓発を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	(仮称)デイトタイム救急隊導入準備	(仮称)デイトタイム救急隊の運用	
	救急活動の迅速化・搬送時間の短縮のためのICTの活用		
	救急車適正利用の広報・啓発		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○(仮称)デイトタイム救急隊導入準備：救急車両や資器材、システム改修などの整備を実施するとともに、隊名称・運用方法などの関係課調整会議を計5回開催し、全体調整を図りながら、運用開始に向けた準備を着実に実施</p> <p>○救急活動の迅速化等のためのICTの活用：有識者による検討会を令和4年2月に開催した他、救急現場では病院照会サポートシステムを活用し、迅速性を意識した活動を行った</p> <p>○救急車適正利用の広報・啓発：市民に対する普通救命講習（年間約1,000回）などにおいて広報・啓発を実施したほか、救急医療週間に医療機関などのデジタルサイネージを活用した広報を実施</p>		
評価の理由	<p>デイトタイム救急隊の導入に向け着実に準備を行ったことで、予定通り令和4年4月からの運用を開始することができた。また、感染症流行拡大の影響はあったものの、医療機関や関係各所との調整により、救急活動の搬送時間短縮に向けた活動や救急車適正利用の広報機会を確保することができた。</p> <p>なお、搬送時間短縮に向けた有識者検討会は令和4年度に3回実施する予定であり、デジタルサイネージでの広報についてもさらに多くの施設に協力を依頼していく。</p>		

29 地域密着で取り組む火災の無いまちづくり事業

担当: 消防局

事業概要	婦人防火クラブと連携しながら、地域密着型の防火対策や防火防災意識の普及啓発を図るとともに、将来、地域における防火防災を担う人材となりうる幼児・児童を対象として、防火防災に関する指導育成を行い、火災の無いまちづくりを推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	地域密着による防火防災意識の普及啓発・指導育成の取り組みの推進		
	婦人防火クラブの活性化・環境づくりなどの検討	婦人防火クラブの活動活性化のための支援	
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○普及啓発・指導育成の取り組みの推進：消防署毎に、婦人防火クラブ、幼少年消防クラブをはじめとする地域団体や地元企業と連携した防火防災イベントなどを実施し、幼児・児童への指導育成、地域の幅広い世代への普及啓発を推進 ○婦人防火クラブの活性化・環境づくりなどの検討：活性化検討会を計4回開催し、実情を踏まえた様々な意見を基に、今後の方向性をとりまとめた		
評価の理由	コロナ禍でイベントや訓練などの参加規模は縮小しているものの、感染対策に留意し、啓発手法を工夫しながら幅広い世代への広報を実施した。また、婦人防火クラブの活性化に向けた一定の方向性をとりまとめることができ、今後の具体的な取り組みを推進する足がかりとなった。		

30 災害活動能力充実強化事業

担当: 消防局

事業概要	災害活動能力の向上を図るため、仙台市荒浜訓練場に街区訓練施設などの実践的な訓練施設を整備するとともに、消火活動をより安全で効果的に実施するため、必要な資器材を計画的に整備します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	街区訓練施設の整備、実践的な訓練の実施		
		熱画像直視装置の配備	
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○街区訓練施設の整備、実践的な訓練の実施：令和4年1月に街区訓練施設2棟の整備が完了した他、令和4年度から実施する実践的訓練に向けた検証や要領の策定を行った ○熱画像直視装置の配備：令和4年3月警防隊8隊に対して装置を配備		
評価の理由	当初の計画どおり、事業は順調に進捗した。令和4年度からは、街区訓練施設などを活用した実践的訓練を実施し、災害活動能力のさらなる向上を図る。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

⑤脱炭素都市づくり推進

目標	脱炭素社会を実現するため、市民や事業者との協働により、温室効果ガスの排出削減や気候変動への適応を進めるとともに、環境教育などに取り組みます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	市域における温室効果ガス排出量	911 万t-CO2 (平成25 年度)	593 万t-CO2 (令和12 年度) ※森林等による吸収量を含む	716万t-CO2 (令和2 年度速報値)		
	市役所におけるエネルギーの使用に伴う二酸化炭素排出量	18.8 万t-CO2 (平成25 年度)	15.1 万t-CO2 (令和5年度)	15.7万t-CO2		
環境教育・学習推進事業の講座・イベントなどの年間参加者数	—	18,000 人 (令和5年度)	7,619人			

31 脱炭素都市づくり推進事業

担当:環境局

事業概要	温室効果ガス削減アクションプログラムなどによる脱炭素型のエネルギーシステムの構築や、環境にやさしい交通への転換を進めます。また、市民、事業者との協働によるせんだいE-Action(において、省エネ・創エネ・蓄エネの3Eの普及啓発を図るとともに、気候変動リスクに備えるための情報提供を行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	脱炭素型のエネルギーシステムの構築		
	環境にやさしい交通への転換促進		
	脱炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルの定着促進		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○脱炭素型のエネルギーシステムの構築：熱エネルギー有効活用支援補助が336件（CO2：155.1t-CO2/年削減）、温室効果ガス削減アクションプログラム参加事業所数が178事業所に達した ○環境にやさしい交通への転換促進：地下鉄利用者数が74,981,790人、コミュニティサイクル利用回数が約82万回に達した ○脱炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルの定着促進：イベント・講座などを積極的に開催し、延4,541人が参加した ○気候変動リスクに応じた施策実施：仙台防災未来フォーラムへの出展や市政出前講座、パンフレット配布などを通じ、気候変動が与える影響についての情報提供、啓発を実施 		
評価の理由	排出量の多い業種・業態などに重点を置いたプロモーションを行った他、各種業界団体との連携による周知・啓発や省エネ設備等導入補助による支援を行ったことで参加事業所数の増加につながるなど、事業は概ね順調に進捗した。		

32 公共施設低炭素化事業

担当:環境局・都市整備局

<p>事業概要</p>	<p>「仙台市環境行動計画」と「仙台市市有建築物低炭素化整備指針」に基づき、公共施設において、建築物の断熱化や高効率機器などの低炭素化技術を積極的に導入し、温室効果ガスの排出とエネルギーコストの削減につなげます。また、さらなる断熱化を推進するため実証実験を行い、設計における断熱基準を確立します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>低炭素化技術の導入対象施設を選定・事業実施</p>			
<p>学校系:実証実験(計測・分析) → 断熱基準の確立</p>		<p>断熱基準に基づく設計・工事</p>	
<p>事務所系:実証実験(設計・工事・計測・分析)</p>		<p>断熱基準の確立</p>	<p>断熱基準に基づく設計・工事</p>
<p>普及啓発</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の主な実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○低炭素化技術の導入対象施設を選定・事業実施：仙台市長命ヶ丘児童センターなど11施設で照明をLED化した他、「仙台市市有建築物低炭素化整備指針」に基づき対象施設に低炭素化技術を導入 ○学校系 実証実験(計測・分析) ⇒断熱基準の確立：断熱基準案を作成 ○事務所系 実証実験(設計・工事・計測・分析)：検討対象室の断熱化設計及び工事を行い、工事後の室内温熱環境などの変化を計測 ○普及啓発：本事業の進捗報告と併せて、建築物の断熱化に関する知識や技術普及を目的としたオンラインセミナーを7月と令和4年1月に実施(計120名程度の参加) 		
<p>評価の理由</p>	<p>照明のLED化をはじめ、低炭素化技術を積極的に導入するなど、事業進捗は概ね計画通りである。 なお、令和4年度以降、「断熱基準に基づく設計・工事」「事務所系 断熱基準の確立」及び「普及啓発」について、学校系用途施設の断熱基準の確立に向けた検討(令和4年度以降も継続)を踏まえ、事業実施の詳細を見直す予定。</p>		

33 環境教育・学習推進事業

担当:環境局

<p>事業概要</p>	<p>「せんだい環境学習館たまきさんサロン」を核に、推進役である杜の都の市民環境教育・学習推進会議「FEELSendai」など、教育機関や市民団体などの多様な主体と連携し、防災や歴史・文化のような他の分野と組み合わせた講座の開催などを通じて、環境に関する学びの機会の充実を図ります。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>「せんだい環境学習館たまきさんサロン」の運営</p>			
<p>「FEEL Sendai」事業の実施</p>			
<p>環境出前講座などの実施</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の主な実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「せんだい環境学習館たまきさんサロン」の運営：来館者数2,317人(令和2年度より458人増)、サロン講座を15回開催し191人が受講(令和2年度より2回増、参加者12人増) ○「FEEL Sendai」事業の実施：杜々かんきょうレスキュー隊を58件(受講者数2,588人)、環境社会実験を3件実施した他、環境ユースカレッジを1名が修了 ○環境出前講座などの実施：環境出前講座ネットワーク、小学校向け環境学習講座を47件実施(受講者数1,652人) 		
<p>評価の理由</p>	<p>コロナ禍による一時休館や一部事業の中止が生じたものの、たまきさんサロンは令和2年度から来館者数、講座開催回数ともに増加し、FEEL Sendaiや環境出前講座なども概ね事業計画のとおり実施できた。 事業参加者数は約7,000人に留まったが、FEEL Sendaiの環境学習プログラム動画やせんだいE-Actionの啓発動画などの閲覧数が約8,000回となった。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

⑥資源循環都市づくり推進

目標	環境負荷の低い生活・ビジネススタイルを実現するため、食品ロスを削減するなど、ごみ減量に取り組むとともに、プラスチックをはじめとしたごみのリサイクルを進めます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	ごみ総量	37.3 万t (令和元年度)	35.0 万t (令和7年度)	36.1 万t		
	ごみの最終処分量	5.2 万t (令和元年度)	4.9 万t (令和7年度)	4.7 万t		
	1人1日当たりの家庭ごみ排出量	463g (令和元年度)	430g (令和7年度)	465g		
家庭ごみに占める資源物の割合	42.5% (令和元年度)	35.0% (令和7年度)	42.0%			

34 ごみ減量・リサイクル推進事業

担当:環境局

事業概要	プラスチックごみや食品ロスの削減のほか、ごみの発生抑制や資源循環に向けた取り組みを推進するとともに、ごみの分別方法などわかりやすい情報提供に努め、各主体が自ら行動する人づくりを進めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○プラスチックごみ・食品ロス等の削減：小売事業者と連携した啓発ポスター・ポップの掲出、特設HPを通じた情報発信など、マイボトルの利用促進に向けた取り組みとともに、事業者などと連携した食品ロス削減キャンペーンを実施した他、フードドライブを実施（回収拠点25か所、回収実績約19トン） ○製品プラスチックのリサイクルに向けた検討：製品プラスチックと容器包装の一括回収リサイクル実証事業を、地区・期間を拡充し実施（市内5地区・延9か月間） ○資源循環に向けた取り組みの推進：家庭系剪定枝のリサイクル事業（229トン回収）紙類等の拠点回収（10,027トン回収）、小型家電リサイクル（51トン回収）を実施 ○適切な情報発信：「資源とごみの分け方・出し方」を全面改訂し市内全世帯に配布するとともに、「ワケルネット」やリサイクルプラザなどの見学エリア展示物をリニューアルした他、3R行動をまとめた「3R分かる本」の小学生向けページを充実させ、令和4年度新4年生を対象に全ての小学校に配布 		
評価の理由	数値目標の一部にやや進捗の遅れが見られるものの、プラスチックごみや食品ロス削減など、ごみ減量・リサイクルの取り組みは概ね順調に進捗した。今後、令和5年4月からの製品プラスチック一括回収・リサイクルの全市展開に向け準備を進めるとともに、ごみの発生抑制を中心とした3Rの取り組みを一層推進していく。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

②防災環境都市プロジェクト

⑦都市交通戦略推進

目標	持続可能なまちづくりの基盤となる交通環境をつくるため、公共交通のさらなる利用促進や地域と連携した移動手段の確保を推進するとともに、都心交通環境の再構築や広域的な道路ネットワークづくりを進めます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	機能集約型都市構造の基軸となる骨格交通軸(地下鉄南北線・東西線)の利用者数	189,000人/日 (令和2年度) ※令和2年4月～令和3年1月までの実績値	前年度実績より増加	206,000人/日		
	地域の移動手段の維持・確保に向けた住民・利用者、バス事業者、行政による意見交換会の実施地区数	2地区 (令和2年度)	7地区 (令和5年度)	10地区		
都市計画道路整備率	85.3% (令和元年度)	86.1% (令和5年度)	85.8%			

35 新たな都市交通政策推進事業

担当:都市整備局

事業概要	過度に自家用車に依存しない、公共交通を中心とした交通体系の充実に取り組むとともに、都心交通環境の再構築や、多様な都市活動を支える交通政策を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	せんだい都市交通プランに基づく施策の実施・検討		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○せんだい都市交通プランに基づく施策の実施・検討：公共交通ワーキングを10回開催し、令和4年3月、質の高い公共交通を中心とした持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指す「仙台市地域公共交通計画」を策定		
評価の理由	当初の予定通り、交通事業者や学識経験者、関係機関などと連携・協働して地域公共交通計画を策定した。 今後は、バス幹線区間・バス準幹線区間における利便性向上策の実施など、交通事業者等との協議調整を行いながら、引き続き、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた施策を推進していく。		

36 公共交通利用促進事業

担当:都市整備局

事業概要	公共交通の利用促進を図るため、転入者・路線バス沿線の地域住民などを対象に、自発的な公共交通の利用を促すモビリティ・マネジメントを主体とするソフト施策である「せんだいスマート」を推進するとともに、利用しやすい運賃施策を検討します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	モビリティ・マネジメントの取り組みなどの実施		
	利用しやすい運賃施策の実施・検討		
	交通施設バリアフリー化の推進		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○モビリティ・マネジメントの取り組みなどの実施：複数の地区にて町内会やPTAと意見交換を実施した他、公共交通の利用状況や主なお出かけ先などについてアンケートを行い、行動変容を促すためのツールなどを作成 ○利用しやすい運賃施策の実施・検討：「地下鉄210円均一運賃」や「東西線結節駅周辺バス100円均一運賃」を継続して実施した他、均一運賃制度の今後のあり方の検討を実施 ○交通施設バリアフリー化の推進：JR仙台駅における仙石線ホームまでのバリアフリー経路を整備 		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、モビリティ・マネジメントに関するワークショップを意見交換形式で開催するなどの工夫を図りながら事業を進めることができた。今後は作成したツールを市民へ配布し、さらなる公共交通の利用促進を図る他、均一運賃制度の今後のあり方について引き続き検討を行う。		

37 地域交通運行確保・運行支援事業

担当:都市整備局

事業概要	市民が暮らしやすいと感じるまちを実現するために、現行の路線バスの維持に努めながら、市民協働による乗合タクシーの導入など、地域に根ざした持続可能な移動手段の確保に向けた取り組みを行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	住民・利用者、バス事業者、行政による意見交換会の実施		
	地域交通の導入支援・運行維持対策支援の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換会の実施：宮城野区田子・余目地区、宮城野区岡田・鶴巻地区、若林区沖野・六郷地区、太白区生出地区、泉区泉西部地区の5地区において、令和2年度に行った移動実態調査の報告や各地域の実情にあった移動手段に関する意見交換会を実施した他、太白区郡山地区において、通勤や通学、買い物、通院など日常生活における移動実態を把握するアンケート調査を実施 ○地域交通の導入支援・運行維持対策支援の実施：市民協働による地域の移動手段確保に向け、宮城野区燕沢地区、青葉区新川地区、太白区坪沼地区、太白区秋保地区、太白区青山地区、太白区生出地区の6地区に対し、技術的・財政的支援を実施 		
評価の理由	高齢化の進展等の理由により、地域交通を運営する住民組織の担い手の確保が難しいことに加え、コロナ禍による外出機会の減少や利用促進に向けた各種イベントの開催見合わせなどにより、利用者が伸びない状況があったものの、小学校でのPR（燕沢）や広報誌での呼びかけなど、各地区で利用促進に取り組んだことにより、全地区で目標収率を達成した。		

38 広域交通ネットワーク整備事業

担当:建設局

<p>事業概要</p>	<p>交流や物流などの都市の活動や、災害時における救命救助や物資輸送などの活動を支えるため、本市の骨格的な幹線道路網を形成する都市計画道路や国道・県道の整備を進めるとともに、部分的な交差点改良など短期的かつ効果的な渋滞対策について検討・実施します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>都市計画道路の整備</p>			
<p>国道・県道の整備</p>			
<p>渋滞対策の検討・実施</p>			
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align: center;">○</p>		
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○都市計画道路の整備：宮沢根白石線（南鍛冶町工区・舟丁工区）、南小泉茂庭線（宮沢橋工区）、元寺小路福室線（五輪工区）、郡山折立線（大野田工区）などで事業を推進し、宮沢根白石線（南光台・安養寺工区）、郡山折立線（郡山工区・青葉山工区）の2路線3工区について、予備設計を実施 ○国道・県道の整備：国道286号（南赤石工区）、泉塩釜線（野村工区）、今市福田線（高江工区）、南宮北福室線（福室工区）などで事業を推進 ○渋滞対策の検討・実施：対策実施候補箇所の選定に着手</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>都市計画道路及び国道・県道の継続路線について、早期完成を目指し工事を進めるとともに、新たに2路線3工区の整備に向けた設計に着手しており、事業は概ね順調に進捗した。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

③心の伴走プロジェクト

①インクルージョン推進

目標	誰もが互いに尊重しあい、地域で共生することができる社会を実現するため、性別、国籍、障害の有無などに関わらず暮らしやすい環境をつくとともに、一人ひとりの持つ多様性についての理解促進に取り組みます。					
総括	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	審議会等女性委員登用率	37.1% (令和元年度)	40.0% (令和5年度)	35.2%	/	/
	女性リーダー育成事業修了者のイベント等への登壇数	18回 (令和元年度)	合計52回 (令和3～5年度)	22回	/	/
	性的少数者等の居場所づくり事業の参加者数	—	180人 (令和5年度)	72人	/	/
	障害理解サポーター養成研修の受講件数	31件 (令和元年度)	40件 (令和5年度)	24件	/	/
	ココロン・スクールの実施回数	3回 (令和元年度)	6回 (令和5年度)	3回	/	/
仙台多文化共生センターにおける生活等に関する相談件数	2,041件 (令和元年度)	2,100件 (令和5年度)	2,155件	/	/	

39 男女共同参画の視点によるまちづくり推進事業

担当: 市民局

<p>事業概要</p>	<p>社会のあらゆる分野への女性の参画を促進するとともに、防災における男女共同参画の視点の重要性を発信し、地域における女性の担い手づくりを支援します。また、男性の男女共同参画意識を醸成するとともに、男性の家事・育児などへの参画を支援します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align: center;">男女共同参画せんだいプランに基づく事業の実施 </p>		
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○男女共同参画せんだいプランに基づく事業の実施：本市審議会等委員への女性委員の登用率向上に向けた事前協議を徹底した他、男女共同参画推進センターにおける学習・研修事業、市民活動スペースの提供、情報提供等を実施 また、以下の取り組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配偶者暴力相談支援センター事業として、DV等被害者の相談対応・各種支援（相談計2,226件）や相談員研修などに加え、女性への暴力撲滅に向け、集中的に啓発活動を行うキャンペーン（10～11月）を実施 ・性暴力の防止と被害者支援に向け、相談員等向けのスキルアップ講座（参加者数30名）、被害者向け心理カウンセリング事業、市民向け講座（参加者数76人）を実施 ・困難を抱える女性への支援に向け、新たに出張型相談会を6回、生理用品10,000パックの配布、レスパレト事業を実施 ・防災・復興まちづくりへの女性参画促進に向けた人材育成プログラム「決める・動く2021」を実施（参加者24人）、「仙台防災未来フォーラム」では女性と防災まちづくりの視点からトークセッションや展示などを実施 ・電話での男性相談（毎月第2・4金曜日）を実施 ・新たに、市民協働事業提案制度による男性の家事・育児参画促進事業（在仙3企業への連続出前講座、啓発冊子作成・配布、市民向けイベント）を実施 		
<p>評価の理由</p>	<p>男女共同参画推進センター事業や配偶者暴力相談支援センター事業、防災・復興まちづくりへの女性参画に向けた事業等の取り組みを継続して進めたほか、新たに困難を抱える女性への支援事業を実施するなど、事業全体としては概ね順調に進捗した。「審議会等女性委員登用率」は基準値に比べて低下しており、今後、委員人選前などの早い段階で担当課ヒアリングを行うなど新たな取り組みを工夫して実施する予定。</p>		

40 多様な性の理解促進・性的少数者支援事業

担当: 市民局

<p>事業概要</p>	<p>多様な性のあり方について理解促進を図るとともに、多様な性のあり方の情報に触れ、性的少数者や支援者など参加者同士が交流できる居場所づくり事業を実施します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align: center;">多様な性のあり方についての理解促進事業の実施 性的少数者の方への支援事業の実施 </p>		
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○多様な性のあり方についての理解促進事業の実施：基本的知識を掲載したリーフレットや性的少数者へのインタビュー記事などを盛り込んだ情報誌を、区役所や市民利用施設、市内各種学校などの他、新たに企業にも配布した ○性的少数者の方への支援事業の実施：月に1回、コミュニティ・スペース「にじのひろば」を開催（延72人参加）</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>リーフレット及び情報誌の配布先を拡充し、理解促進に努めた。一方で、性的少数者の方への支援として居場所づくり事業を実施したが、コロナの影響により中止回（4・8・9月）があったことから参加者数は低調であった。対象者に届くよう、引き続き様々な形で広報を行い、参加者増につなげていく。</p>		

41 障害理解促進事業

担当:健康福祉局

事業概要	障害を理由とする差別を解消し、障害のある人もない人も共に暮らしやすい共生社会の実現を図るため、相談支援・庁内体制整備・普及啓発などの差別解消条例にかかる各種事業を実施することにより、障害理解の促進を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	障害理解サポーター事業を通じた障害理解の促進		
	市民・事業者への障害理解の促進		
	障害者差別解消に向けた相談支援の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○障害理解サポーター事業を通じた障害理解の促進：障害理解サポーター養成研修を実施（講師派遣24回、講師養成研修5回、参加人数961人） ○市民・事業者への障害理解の促進：中高生向けワークショップ「ココロン・スクール」（3回、544人参加）、市役所本庁舎への吊看板設置、障害者差別解消に関する団体等への研修実施（1団体）、ヘルプマークの配布（2,329個）、障害者スポーツ体験イベント（3回、約66人参加）、若年層を対象としたWeb広告（約215万回表示、Webページ表示は3,519回）を実施 その他、職員向けとして新規採用職員研修（受講者数313名）、全職員対象の書面研修を実施 ○障害者差別解消に向けた相談支援の実施：各区・宮城総合支所障害高齢課に各1名の相談員を配置（相談件数33件）、仙台市障害者差別相談調整委員会を運営（定例会1回）、仙台市差別解消・虐待防止連絡協議会を運営（1回・書面開催）、コミュニケーション支援として手話通訳者派遣（987件）を実施 		
評価の理由	コロナ禍を踏まえたオンライン研修の実施、若年層を対象としたWeb広告の実施など、新たな手法や広報媒体を取り入れ、市民や事業者等への障害理解を進めることができた。引き続き、市民や事業者等に様々な普及啓発の機会を設けられるよう、効果的な手法などを検討し障害理解の促進を図る。		

42 多文化共生推進事業

担当:文化観光局

事業概要	国籍や民族などが異なる人々が、互いの文化的差異を認め合いながら、平常時・災害時に関わらず、地域社会の構成員として共に安心して生活していくことができるよう、多言語での情報発信などによる外国人住民のコミュニケーション支援・生活支援、地域の人々の国際理解・交流促進などについて、関係機関と連携を図りながら推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	仙台多文化共生センターの運営		
	日本語学習支援・生活支援・地域づくり支援などの実施		
	外国人住民への窓口サービス向上の推進		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○仙台多文化共生センターの運営：生活などに関する相談件数は2,155件で、外国人住民を主な対象として、必要な情報の提供を行うほか相談対応を実施 ○日本語学習支援・生活支援・地域づくり支援などの実施：（公財）仙台観光国際協会を中心に、市民団体との協働による日本語講座の開催（延175人参加）、外国につながる子ども支援のためのコーディネーター等の派遣（22件）、市民活動への助成（7件）などを実施 ○外国人住民への窓口サービス向上の推進：行政情報の翻訳・通訳支援を300件（翻訳291件、通訳9件）、市職員を対象とした「やさしい日本語」研修を6回（105人受講）実施 		
評価の理由	実施計画における目標値（仙台多文化共生センターにおける相談件数）に達するなど、事業は概ね順調に進捗した。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

③心の伴走プロジェクト

②地域支えあいの基盤づくり

目標	高齢者や障害者など、誰もが安全で安心して地域で生活を送ることができる基盤をつくるため、相談しやすい体制や住まいを整備するとともに、地域における支えあいの環境づくりを推進します。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値 目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	コミュニティソーシャルワーカーによる事例検討会の開催回数	—	1回 (各年度)	0回	/	/
	再犯防止ネットワーク会議の開催回数	—	1回 (各年度)	2回	/	/
	障害者相談支援体制における地域生活支援拠点の設置数	—	1箇所 (令和5年度)	1箇所	/	/
	市内障害者グループホームの利用者数	1,012名 (令和元年度)	1,262名 (令和5年度)	1,255名	/	/
	児童発達支援センターの地域相談支援件数	1,158件 (令和元年度)	2,000件 (令和5年度)	2,238件	/	/
	発達障害者支援センターと発達障害者地域支援マネジャーの関係機関や地域住民への助言件数	2,633件 (令和元年度)	2,900件 (令和5年度)	2,633件	/	/
	発達障害児者支援に関する家族教室・家族サロンの開催回数	—	30回 (令和5年度)	31回	/	/
	発達障害者支援地域協議会・庁内連絡会の実施回数	4回 (令和元年度)	4回 (令和5年度)	4回	/	/
	高齢者の生活支援等サービスに係る体制整備を推進するための協議体開催回数	—	5回 (各年度)	4回	/	/
認知症サポーター養成講座の延べ受講者数	91,740人 (令和元年度末)	111,000人 (令和5年度末)	99,262人	/	/	
認知症の人の見守りネットワーク事業の延べ協力者数	855人 (令和元年度末)	1,400人 (令和5年度末)	1,357人	/	/	

43 地域福祉推進事業

担当:健康福祉局

事業概要	誰もが地域で安心して暮らすことができるよう、多様な主体の参加による地域福祉活動を推進するとともに、複雑化・多様化する地域生活課題の解決に向け、住民や関係機関・団体、行政などによる支援体制づくりを進めます。また、成年後見制度の利用促進や再犯防止のための取り組みを推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	コミュニティソーシャルワーカーによる支援ネットワークの強化		
	成年後見制度利用促進に係る中核機関・協議会設置の検討		
	再犯防止ネットワーク会議の開催		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティソーシャルワーカー：本市内の活動者への日常的な地域活動支援を継続実施した他、コロナ禍などへの対応に向け各区・支部毎に「ICT活用体験会」を開催し、地区社協会長などがWeb会議の方法を学び実践する機会を設けた ○成年後見制度利用促進：関係機関間で、中核機関等のあり方について、個別支援充実のための権利擁護チーム支援会議の設置など、具体的な方向性を確認した ○再犯防止ネットワーク会議：11月に会議を設置、令和4年2月に第2回会議を開催し、令和4年度に、保護司など支援者向けに相談窓口や制度をまとめた冊子の作成や釈放前指導などで生活保護制度の正しい理解を促す説明資料の作成を決定 		
評価の理由	コミュニティソーシャルワーカーに関する事例検討会を中止するなど、一部でコロナ禍の影響があったものの、全体としては概ね順調に進捗し、再犯防止ネットワーク会議については目標値を上回る2回開催した。今後、コミュニティソーシャルワーカーの地域支援活動を充実させる他、成年後見制度利用促進に係る中核機関等の設置に向けた先行取組などを実施する。		

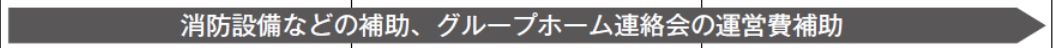

44 障害者相談支援体制推進事業

担当:健康福祉局、各区

事業概要	障害者相談支援事業所、市・区障害者自立支援協議会、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点などの各種取り組みを通じて、相互に連携を図り、障害児者への支援体制の整備を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	地域生活支援拠点等の確保、運用状況の検証・検討		
	基幹相談支援センター委託に向けた準備		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援拠点等の確保、運用状況の検証・検討：4月に地域生活支援拠点等を1箇所整備し、9月には運用状況の検証・検討を行う会議を実施 会議では、予防的な中長期的支援のコーディネート及び緊急受入れ機関のネットワーク形成のあり方について協議 ○基幹相談支援センター委託に向けた準備：障害児者に対する個別支援力の育成に係る取り組みとして、障害者相談支援事業所等との支援困難ケースへの共同支援、合同ケースレビュー/事例検討会（5回）を開催 		
評価の理由	地域生活支援拠点等については予定通り令和3年度に設置することができた。今後は、役割の明確化や主たる機能であるコーディネートの強化などを図るため、基幹相談支援センターとの共同支援に取り組む。また、基幹相談支援センターについては、支援困難ケースへの共同支援などにより、障害者相談支援事業所の個別支援力の育成、関係機関との連携を図ることができた。引き続き、障害児者への支援体制の整備に取り組む。		

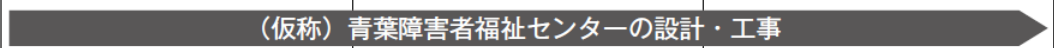
45 障害者グループホーム整備促進事業

担当:健康福祉局

事業概要	障害者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、消防設備設置や改修費用の補助を行いグループホームの新規開設などを促進するほか、行動障害支援者養成や医療的ケアが必要な方の受入支援を行う事業者に補助を行います。また、支援の質の向上について仙台市グループホーム連絡会と連携して取り組みます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	 		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○消防設備などの補助、グループホーム連絡会の運営費補助：新規開設事業者に対し消防設備設置などの改修費用1,193千円（8件）、「仙台市グループホーム連絡会」が実施する開設及び運営に関する相談・助言並びに支援の質の向上を目的とする研修費用223千円（年額）の助成を実施したほか、新たに、強度行動障害者の受入促進のため支援者養成研修費への補助を実施（747千円、12件のうち生活介護8件、共同生活援助3件、短期入所1件）</p> <p>○医療的ケア対応型グループホームの運営費補助：2事業所に1,700千円を補助</p>		
評価の理由	各助成の継続により、グループホーム整備の促進が図れた。また、新たに始めた強度行動障害支援者養成研修費補助金により、研修を受講した複数事業所における強度行動障害者の受入促進が期待できる。医療的ケア対応型グループホームの運営費補助については、グループホームでの医療的ケア者の暮らしを支える仕組みとして、看護師確保に加え医療的ケアが行なえる支援員の養成を支える必要があり、入所に向けた体験時から支援員を養成できるように要綱改正を行った結果、2件の申請につながった。		



46 障害者福祉センター整備事業

担当:健康福祉局

事業概要	地域生活を支援する拠点機能をはじめ時代のニーズに合わせた機能を有した(仮称)青葉障害者福祉センターを市民センターとの複合施設として、青葉区旭ヶ丘地区に整備します。また、既に4区に設置している障害者福祉センターについて、(仮称)青葉障害者福祉センターの整備に伴い、市全体の障害者福祉センターが今後担うべき機能などの検討を行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○(仮称)青葉障害者福祉センターの設計・工事：旭ヶ丘地域との協議を継続し、設計のために必要な内容を整理した他、既に4区に設置している障害者福祉センターについて、(仮称)青葉障害者福祉センターを含めた、5つのセンターとして担うべき機能の検討を行い、利用対象を拡大するなど事業見直しを実施</p>		
評価の理由	旭ヶ丘地域との合意形成を図りながら、設計に向けた準備作業を着実に進めることができた。併せて、既に4区に設置している障害者福祉センターについても、条例改正を行い、対象者の拡大を図ることができた。		

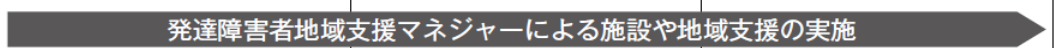
47 就学前療育支援体制整備事業

担当:健康福祉局

事業概要	就学前に療育が必要な児童を支援するため、児童発達支援センターに地域相談員を配置し、地域における相談支援や保育所・幼稚園の訪問支援などを行います。また、支援機関につながっていない保護者を対象にペアレント・プログラムを実施するほか、保育所などに在籍している親子に、児童発達支援センターで併行通園を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			
			
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○地域相談員による地域支援業務の実施：地域の保護者延1,159名、保育所など関係機関の職員等延378名から相談を受けた他、延701名の施設訪問支援を実施</p> <p>○就学前療育支援推進モデル事業の実施・本格実施の検討：</p> <p>子供の発達に不安や困りごとを抱える保護者を対象とした支援プログラム（ペアレントプログラム）を、隔週でグループ毎に全6回実施した他、保育所や幼稚園などに在籍する、発達に不安があり療育が必要と認められた親子について、児童発達支援センター1か所で3か月間、週1日の親子支援（併行通園）を10回提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントプログラム <ul style="list-style-type: none"> 第1クール（6月～8月）：宮城野区3名、若林区0名（コロナで中止） 第2クール（10月～12月）：宮城野区2名、若林区0名（コロナで中止） 第3クール（12月～令和4年3月）：宮城野区5名、若林区8名 泉第二幼稚園（9月～11月）：6名 ・併行通園（田子西たんぼぼホーム） <ul style="list-style-type: none"> 卒園児対象（令和3年5月～7月）：3家庭 第1クール（令和3年9月～11月）：4家庭 第2クール（令和3年12月～令和4年2月）：7家庭 第3クール（令和3年1月～3月）：7家庭 		
評価の理由	<p>地域相談支援については昨年度より件数が増加し、目標値を達成した。個別化・複雑化していく地域からの相談に対応し、コロナ禍でも充実した支援を提供するため、本市における地域支援のあり方を関係機関と改めて整理・共有するとともに、各センターの地域相談員同士の連携を強化し、人材確保・人材育成に努める。</p> <p>モデル事業については、感染症対策や託児の実施など、利用しやすい環境整備や子育て分野との連携による事業周知を進め利用者の増加に努めていく。また、本格実施に向け、支援内容や支援方法の検証のほか、国の給付事業や補助事業の活用を検討する。</p>		

48 発達障害児者支援体制整備事業

担当:健康福祉局

事業概要	発達障害児者とその家族が安心して地域で生活できるよう、相談支援体制や家族支援などの充実、教育と福祉など関係機関の連携を推進するとともに、地域支援機能を強化し、地域の支援力向上を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○発達障害者地域支援マネージャーによる施設や地域支援の実施：950件の訪問に加え、408件のネットワーク構築、人材育成などを実施した他、アーチル発達障害専門講座（自閉症・行動障害編）オンデマンド配信などを行った</p>		
評価の理由	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、施設訪問や集合形式での研修の実施が困難な状況であったが、オンデマンドによる講座の配信を行うなどすることで、概ね予定通り、地域支援やネットワーク構築に取り組むことができた。</p>		

49 高齢者生活支援事業

担当:健康福祉局、各区

事業概要	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、公的なサービスの充実だけでなく、地域資源の発掘や育成など、その特性に応じた支え合い体制づくりに取り組みます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	生活支援体制整備事業・公的サービス事業の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○生活支援体制整備事業・公的サービス事業の実施：第1層生活支援コーディネーター（区及び宮城総合支所毎：6名）及び第2層生活支援コーディネーター（地域包括支援センター毎：52名）を設置し、地域の関係機関のネットワーク構築や地域資源の開発等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活支援等サービスに係る体制整備を推進するための協議体開催回数：区地域ケア会議4回 ・第2層生活支援コーディネーターが関わる地域の支え合い体制づくりに関する会議等は以下のとおり 機能強化専任職員ミーティング2回（うち1回書面開催）、介護予防のための地域ケア個別会議（区主催）21回、包括圏域会議（包括主催）101回、個別ケア会議（包括主催）108回 <p>○訪問型地域支え合い活動促進事業の実施：住民主体による訪問型地域支え合い活動促進事業実施団体に補助を実施（9団体、788千円、延支援件数1,778回）</p> <p>その他実績は以下の通り 訪問型短期集中予防サービス（延訪問回数14回）／通所型短期集中予防サービス（延利用者数125名）／仙台市緊急通報システム設置（3,741台）／仙台市介護用品支給事業（延利用件数4,439件）／仙台市高齢者食の自立支援サービス事業（延配食数291,076食）</p>		
評価の理由	<p>区地域ケア会議は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止回があり、4回の開催に留まったものの、個別ケースの課題解決に向けた協議を行うためのケア会議や包括圏域単位のケア会議を開催し、支援事例の積み重ねや地域課題の抽出を行うことができた。今後も、区地域ケア会議をはじめとする高齢者の生活支援等サービスに係る体制整備を推進するための協議体を継続的に開催する。</p> <p>なお、訪問型地域支え合い活動促進事業は令和3年度で終了し、令和4年度より訪問型生活支援活動団体立ち上げ支援等事業を実施する。</p>		

50 認知症地域支援推進事業

担当:健康福祉局

事業概要	認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症サポーターの養成や認知症カフェなどを通じて、認知症に対する地域の理解を深め、認知症があってもなくても、同じ社会の一員としてともに支えあう体制づくりを推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	認知症地域支援推進事業の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○認知症地域支援推進事業の実施：認知症サポーター養成4,081人、認知症パートナー養成22人、認知症の人の見守りネットワーク事業協力者1,357人（149人増）、認知症カフェ等へのピアサポート派遣9回（累計派遣人数37人）・参加人数 606人</p>		
評価の理由	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中止にせざるを得ない講座や開催出来ないカフェなどがあり、活動が一部制限されたが、そのような中でも事業を推進するために工夫や努力をし、認知症サポーター養成者数や認知症の人の見守りネットワーク事業協力者数、ピアサポートの実施など、概ね計画通り達成することができた。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

③心の伴走プロジェクト

③社会的自立支援

目標	誰もが孤立せずに、必要な支援機関などにつながる仕組みをつくるため、生活困窮者やひきこもり者、ひとり親家庭や青少年など、支援を必要とする方に対してアウトリーチ型の相談支援や社会参加支援等を実施することで、社会的な自立を後押しする環境をつくります。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値 目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	わんすてっぷの新規相談受付件数	2,043 件 (令和元年度)	3,177 件 (令和5年度)	5,139件	/	/
	家計相談プラザの新規相談件数	—	100 件 (令和5年度)	149件	/	/
	ひきこもり者地域相談会の開催回数	8回 (令和元年度)	12 回 (令和5年度)	7 回	/	/
	ひとり親家庭相談支援センターにおけるひとり親家庭などの相談件数	平均659 件/ 年 (平成29 ~令和元年度)	680 件 (令和5年度)	619件	/	/
	青少年自立促進事業におけるふれあい広場の延べ通所者数	2,838 人 (令和元年度)	3,046 人 (令和5年度)	3,941人	/	/

51 生活困窮者自立支援事業

担当:健康福祉局

事業概要	仙台市生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」の運営を通して、生活困窮者の様々な相談をワンストップで受けとめ、一人ひとりに合ったプランを策定し、自立に向けた伴走支援を実施します。また、仙台市家計相談プラザの運営を通して、生活困窮者の家計に関する課題解決を支援し、自ら家計管理ができるよう支援します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	仙台市生活自立・仕事相談センターの運営		
	仙台市家計相談プラザの運営		
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	○仙台市生活自立・仕事相談センターの運営：総合支援資金の貸付や新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金等の利用者の相談増加もあり、目標を上回る相談者の利用があった ○仙台市家計相談プラザの運営：2か所の窓口と専用電話で相談を受け付けた他、被保護世帯向けの家計セミナー開催した		
評価の理由	仙台市生活自立・仕事相談センターの運営では、目標値を大きく上回る新規相談件数となり、コロナ禍における生活困窮者支援につながるような伴走型支援を継続できた。また、仙台市家計相談プラザについても、リーフレットやHP掲載などにより相談者や関係機関の認知が高まったため、電話での相談件数が増加し目標値を達成した。		

52 ひきこもり者地域支援事業

担当:健康福祉局

事業概要	ひきこもり者の状態に応じた適切な支援を行うため、ひきこもり地域支援センターやひきこもり地域相談会における相談支援、中高年者向けの居場所支援など相談支援機能の強化を図るとともに、関係機関と協議・検討を行い、必要な社会資源の開発、改善に取り組みます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	ひきこもり者・その家族に対する相談支援などの提供		
	社会資源の開発・改善		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○ひきこもり者・その家族に対する相談支援などの提供：ひきこもり地域支援センターにおいて、ひきこもり者やその家族を対象とした相談支援を実施し、延2,016件の相談（令和2年度比150件増、内訳は電話1,013件、メール94件、来所750件、訪問108件、その他51件）に対応 また、ひきこもり者の家族などを対象としたひきこもり地域相談会を7回開催し、延11件の相談に対応（8回開催予定のところ緊急事態宣言発出により1回中止、令和2年度比15件減） ○社会資源の開発・改善：中高年ひきこもり者向け居場所支援モデル事業を通年実施し、延利用者は559人（1日当たり5.9人） なお、令和2年度は半年間の実施で延利用者230人、1日当たり4.9人であった		
評価の理由	ひきこもり地域相談会の相談はやや低調であったが、ひきこもり地域支援センターにおける相談件数は150件増加しており、相談支援全体としては概ね順調に進捗した。また、中高年ひきこもり者向け居場所支援モデル事業についても、1日当たりの利用者数に増加がみられ、概ね順調に進捗した。 今後は事業の本格実施に向けノウハウを蓄積し、中高年のひきこもり者に必要となる支援機能等を整理していくとともに、社会資源開発の取組みの一環として、新たに令和4年度から、中高年のひきこもり者などの親なきあとの生活設計を目的とした、ファイナンスプランナーによる学習会・相談会の実施を予定している。		

53 ひとり親家庭等支援推進事業

担当: 子供未来局

事業概要	ひとり親家庭などの生活の安定と向上を図り、その自立を促進するため、「仙台市ひとり親家庭等安心生活プラン」に基づき、相談窓口の充実や相談しやすい体制づくりなど、ひとり親家庭などの支援を総合的・計画的に展開します。		
年次計画	令和3年度 アンケート実施 仙台市ひとり親家庭等安心生活プラン等に基づく施策の実施・検討	令和4年度 施策への反映	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート実施：18歳未満の子どもがいるひとり親等の世帯に対し、暮らしの状況等生活実態のアンケート調査を実施（回答989件） ○仙台市ひとり親家庭等安心生活プラン等に基づく施策の実施・検討：ひとり親家庭相談支援センターによる就業支援を実施（就業に至った人数50人）した他、アウトリーチ型の相談支援事業をモデル事業として実施（相談件数5,286件） 		
評価の理由	計画していた項目は順調に進捗した。今後、アンケート調査の結果やモデル事業の実績などを踏まえ、ひとり親家庭等の自立を促進するため、支援体制の充実や子育ての負担軽減など、総合的でより効果的な施策の推進を図る。		

54 青少年自立促進事業

担当: 子供未来局

事業概要	青少年の社会的自立を支えるため、青少年の様々な悩みや子どもの問題行動など各種相談に応じるとともに、日中の居場所の提供や就学・就労に向けた支援など困難を抱える青少年のための支援活動を行います。また、その時期に対応したテーマで、青少年に関するセミナーを開催します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい広場サテライトの運営・検討：ふれあい広場サテライトを委託により3か所運営（延利用者3,941人、うちサテライト2,750人）令和2年度実績（3,242人、うちサテライト2,075人）から大きく増加 ○ふれあい広場相談員による指導・支援：ふれあい広場相談員とふれあい広場サテライト相談員が合同アウトリーチや支援方針会議を行い、相談業務の共通理解と支援力の向上を図った他、アウトリーチを実施することで、支援している家庭の社会的つながりを維持することができた 		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、ふれあい広場サテライトは概ね順調に運営できた。今後も安定した運営を続けられるよう指導・支援に努め、定例会や支援方針会議の充実を図る。また、サテライト拡充に向けた検討を続けていく。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

③心の伴走プロジェクト

④子どもの安全・安心確保

目標	子どもたちが健やかに暮らすことができる環境をつくるため、各般のいじめ防止等対策を推進するとともに、児童虐待を予防し、支援する体制の整備を行うほか、里親委託推進や社会的養護が必要な子どもの権利擁護、生活に困窮する世帯の子どもの学習・生活支援を行います。						
総括	全ての事業において着実に進捗した。						
数値目標	項目	基準値	目標値	実績			
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	いじめ対策担当教諭の配置校数(児童支援教諭・いじめ対策専任教諭)	小:101/小規模校を除く114校 中・特:66/66校 (令和2年度)	小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校に必要な担当教諭を全て配置(令和3年度)	必要な担当教諭を全て配置 小:114/小規模校を除く114校 中・特:66/66校	/	/	/
	児童虐待防止推進員が配置されている保育施設などの割合	73.5% (令和元年度)	80.0% (令和5年度)	80.2%	/	/	/
	里親委託率	35.3% (令和元年度)	36.7% (令和5年度)	38.2%	/	/	/
	学習・生活サポート事業参加者のうち中学3年生の高等学校等進学率	95.9% (令和元年度)	100% (令和5年度)	99.1%	/	/	/
	児童相談所の児童福祉司及び児童心理司配置数	児童福祉司:32人 (令和2年度当初) 児童心理司:15人 (令和2年度当初)	児童福祉司:39人 (令和4年度当初) 児童心理司:19人 (令和6年度当初)	児童福祉司:43人 (令和4年度当初) 児童心理司:18人 (令和4年度当初)	/	/	/
児童相談所の一時保護所定員数	20人 (令和2年度)	30人 (令和5年度)	20人	/	/	/	

55 いじめ防止等対策推進事業

担当: 子供未来局、教育局

<p>事業概要</p>	<p>いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図るため、学校の対応力強化や相談窓口による支援の充実など各般のいじめ防止等対策を、施策の検証による不断の見直しを行いながら、関係機関と連携して総合的に推進します。また、社会全体で子どもたちをいじめから守る意識の醸成を図るための取り組みを実施します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>いじめ防止等対策の総合的な推進</p>			
<p>仙台市いじめ防止等対策検証会議による施策の検証</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の主な実績</p>	<p>○いじめ防止等対策の総合的な推進： ・年度初めに各学校で「いじめ防止対策等に係る総点検」を実施した。また、教職員の意識向上を図り、いじめ不登校対応支援チームによる具体的な指導助言を行った ・リーフレット、ポスターなどの配布や掲示、いじめ防止等対策に関する情報を一元的かつ体系的に集約したポータルサイト「はじめのいっぽ」の開設（令和4年3月末）などを通じ、保護者や地域住民など幅広く市民に対し広報啓発を実施 ・「仙台市いじめ等相談支援室 S-KET」を運営し、延449件のいじめ等に関する相談に対応、また、学校・関係各所との調整活動など、悩みの解決に向けて相談者に寄り添った支援に努めた ・関係機関・団体の連携や市役所全体でのいじめ防止対策推進を図るため、「仙台市いじめ問題対策連絡協議会」（7月）、「仙台市いじめ防止等対策本部会議」（年4回）を開催 ○仙台市いじめ防止等対策検証会議による施策の検証：6回開催し、令和2年度実施のいじめ防止等対策事業などの検証及び検討を行い、報告書を本市HPで公開</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>いじめ不登校対応支援チームの訪問により、学校と教育委員会の情報が密接になり、未然防止、早期発見、早期対応の理解が進んだ。いじめ防止きずなアクションにおいて、児童生徒が主体となって積極的にいじめ防止活動に取り組むことにより、いじめ防止に対する意識を高めることができた。 また、幅広い市民への広報啓発や、いじめ等に関する相談窓口の運営を行い、いじめ防止に向けた取り組みを着実に進めた。いじめ防止等対策検証会議を引き続き運営するとともに、年度ごとの報告の内容に応じた不断の見直しを進めていく。</p>		

56 児童虐待防止推進事業

担当: 子供未来局

<p>事業概要</p>	<p>児童虐待の予防、早期発見、早期対応を推進するため、子ども家庭総合支援拠点を設置し、要支援児童・要保護児童・特定妊婦などへの支援を強化するとともに、関係機関との緊密な連携の確保や、児童館・保育所への児童虐待防止推進員の配置など、さらなる体制の充実を図ります。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>子ども家庭総合支援拠点・子育て世代包括支援センターと連携した取り組みの強化</p>			
<p>関係機関との緊密な連携の確保</p>			
<p>研修の充実</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の主な実績</p>	<p>○子ども家庭総合支援拠点・子育て世代包括支援センターと連携した取り組みの強化：支援対象児童等見守り強化事業を実施し、要保護児童など支援ニーズが高い児童の状況把握に努めた他、適切な支援へのつなぎを行った（157世帯、延1,196回訪問） ○関係機関との緊密な連携の確保：要保護児童対策地域協議会について代表者会議（1回）及び各区役所・宮城総合支所の実務者会議（計18回）を開催し、保育施設・学校・NPO・医療機関・警察・行政機関などとの連携強化を図った ○研修の充実：主任児童委員（1回）や児童福祉施設職員（2回）を対象に実施</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>当初計画通り、事業を実施することができた。 令和4年度以降も関係部署・関係機関と連携しながら、着実に事業を実施する。</p>		

57 社会的養育推進事業

担当: 子供未来局

事業概要	児童福祉法が定める家庭養育優先原則などの実現に向け、「仙台市社会的養育推進計画」に基づき、里親委託の推進や措置児童の権利擁護の取り組みなど、各種施策の展開を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○里親委託の推進：里親制度説明会（7月：9家庭14名、8月：5家庭8名）、里親登録研修（7月：18家庭29名、11月：9家庭13名）、里親更新研修（10月：13家庭18名）を実施した他、未委託里親トレーニング事業（10月～令和4年3月：7家庭参加）を実施		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により一部の研修を中止したものの、概ね順調に進捗しており、実施計画における目標値の他、仙台市社会的養育推進計画において設定している里親委託率の目標値（令和3年度32.3%）も達成した。今後も説明会や研修会の開催時期・方法を適宜見直しながら進めていく。		

58 子どもの居場所づくり推進事業

担当: 子供未来局

事業概要	生活困窮世帯の子どもたちが安心して過ごせるよう、子どもたちが適切な生活習慣を習得し、健全に成長することができる環境をつくるとともに、身近な支援者を得ることができる仕組みと場づくりを進めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○学習・生活サポート事業、中途退学未然防止等事業、子どもの居場所づくり支援事業の実施：以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活サポート事業 教室の運営（20か所、参加実人数265人）、保護者支援（相談件数1,436件） ・中途退学未然防止事業 教室の運営（3か所、参加実人数177人）、保護者支援（相談件数826件） ・子どもの居場所づくり支援事業 「子ども食堂」の運営団体へ活動費用を助成（39団体、6,611千円） ○令和5年度以降の事業のあり方検討：委託事業者との情報共有、子ども食堂の運営団体へのアンケートなどにより課題を洗い出し、今後の事業のあり方を検討した		
評価の理由	学習・生活サポート事業参加者のうち中学3年生の高等学校等進学率は99%（111人中110人）であった。コロナ禍ではあったが、関係機関の協力を得ながら各事業を実施することができた。令和5年度以降の事業のあり方について、引き続き検討を行う。		

59 児童相談所機能強化事業

担当: 子供未来局

<p>事業概要</p>	<p>児童虐待予防のための早期対応から、発生時の迅速な対応、虐待を受けた児童の自立支援など切れ目のない支援体制を構築します。また、支援体制の構築と併せ、施設の大規模改修による長寿命化と社会的ニーズをふまえた一時保護所の機能強化や新型コロナウイルス感染症対策などにも対応した施設環境整備を行います。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>児童虐待防止対策体制総合強化プランに基づく体制強化</p>			
<p>大規模改修：設計</p>		<p>大規模改修：工事</p>	
<p>保護所増築：設計</p>		<p>保護所増築：工事</p>	
<p>進捗状況</p>	<p style="text-align: center;">○</p>		
<p>令和3年度の 主な実績</p>	<p>○児童虐待防止対策体制総合強化プランに基づく体制強化：令和4年度当初より、児童福祉司43名、児童心理司18名（常勤換算）となり、国の配置基準に沿った組織体制となった ○大規模改修 設計：予定通り令和3年度内で完了 ○保護所増築 設計：予定通り令和3年度内で完了</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>体制強化について、新プランに沿った配置基準を達成したが、今後も国の配置基準に基づいた人員確保を図りながら、専門性の確保・向上にも努めていく。施設整備については、令和3年度に計画通り設計を完了した。今後は児童相談業務や一時保護所入所児童の生活に支障を与えないよう配慮しながら、令和4年度以降の円滑な工事着工に向け準備を進める。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

③心の伴走プロジェクト

⑤心を支える取り組み推進

目標	誰もが健やかな心で暮らすことができる環境をつくるため、自殺予防に関する相談支援体制などを整備するとともに、子どもたちに対して命を大切にする教育を推進します。					
総括	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)	17.6 (平成27年)	13.7以下 (令和5年)	19	/	/
	「仙台版命と絆プログラム」を活用した授業の実践回数	—	各学級1回 (各年度)	— ※	/	/

※令和5年度までに実施予定。

60 自殺対策事業

担当:健康福祉局

事業概要	誰も自死に追い込まれることのない仙台の実現を目指し、「仙台市自殺対策計画」に基づき、事業の実施状況や課題を把握するとともに、毎年度計画に基づく取り組みの評価・検証を行い、必要な改善を図ります。また、自殺対策連絡協議会において、関係機関・団体の取り組みを共有し、連携強化を図り、効果的な自殺対策を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 仙台市自殺対策計画に基づく評価・検証・取り組みの推進 </div>		
進捗状況	△	/	/
令和3年度の主な実績	<p>○仙台市自殺対策計画に基づく評価・検証・取り組みの推進：令和2年自殺統計の分析を踏まえた、本市の取り組みの評価・検証結果を第1回仙台市自殺対策連絡協議会（10月）に報告し、仙台市自殺対策計画の方向性に沿って、令和2年自殺者のうち増加した属性（高齢男性、若年女性）に対する取り組みの改善を図った その他の取り組みは以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市自殺総合対策庁内連絡会議（8月）、第2回仙台市自殺対策連絡協議会（令和4年3月）を開催し、情報共有と連携強化 ・自殺対策推進センターにおいて、相談窓口紹介リーフレットを配布するとともに、再度の自死関連行動防止に向けた訪問・面接などによる相談支援を実施（20名、延相談回数232回）した他、令和4年2月に関係機関職員を対象とする研修会を実施（オンデマンド方式、156名受講） ・対面相談（暮らし支える総合相談）を通年実施に拡充（伴走支援件数延418件、実相談者数137名） ・SNS相談（仙台いのち支えるLINE相談）の開設日を日曜・月曜・祝日・祝翌日とし、通年実施に拡充（延相談件数704名） 		
評価の理由	令和3年の自殺死亡率が前年比で悪化した。要因としては、令和2年度に引き続き、高齢男性と若年女性の高止まり、若年男性の増加が大きいと考えられることから、これらの属性に対する取り組みを引き続き行っていく。		

61 命を大切にしている教育推進事業

担当:教育局

<p>事業概要</p>	<p>たくましく生きる力を土台とした社会的自立を実現するため、全小学校・中学校において仙台版命と絆プログラムを活用しながら授業実践を行うとともに、検証・改善を行い、命を大切にしている教育が円滑に展開されるように支援します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
	<p>「仙台版命と絆プログラム」を活用した授業の実践</p>		
	<p>命を大切にしている教育研修の実施</p>		
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>		
<p>令和3年度の主な実績</p>	<p>○「仙台版命と絆プログラム」を活用した授業の実践：各学校、学級の児童生徒の実態などに配慮しながら、小学校118校中108校、中学校64校中54校でプログラムを活用した授業実践を行った ○命を大切にしている教育研修の実施：年度当初の予定通り、各学校悉皆1名の参加により研修を実施 夏休み中に実施したことで、休み明けの自死や不登校への懸念に備えて校内研修を行ったり、資料配付を行ったりすることができ、児童生徒の変化を見逃さない体制づくりの一助となった</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>仙台版命と絆プログラムを活用した授業実践は、小中学校合わせて162校の実践となったが、残り20校を含む各学校において、年間指導計画に基づき、各学級において道徳教材やたく生きプログラムなどを活用した命に関する授業を実践しており、命を大切にしている教育は実践されている。 今後、プログラムの活用について、各学校、学級の実践事例の収集や共有、取り組み状況の把握を進め、目標に沿った活用が図られるように取り組む。 また、命を大切にしている教育研修については、受講者から、教職員への理解啓発と校内体制や保護者との連携づくりにつながっているとの声も聞かれ、研修を行う目的を果たしている。</p>		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

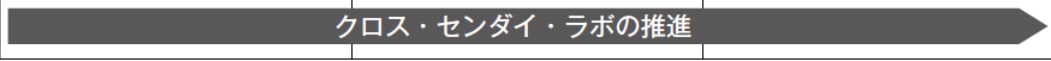
④ 地域協働プロジェクト

① 協働が生まれる基盤整備

目標	地域団体やNPO、事業者など多様な主体による協働が生まれやすい環境をつくるため、課題の発掘・分析から担い手育成・強化、具体の協働事業実施に至るまでの各プロセスに応じた支援を包括的に行う「地域づくりパートナープロジェクト」を展開するとともに、企業提案による公民連携の促進、エリアマネジメント団体の取り組みの支援などを行います。					
総括	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	地域づくりパートナープロジェクト推進助成件数	—	6件 (各年度)	7件		
	仙台市市民活動サポートセンターの利用団体数	720 団体 (令和元年度)	基準値以上	826団体		
	地域の移動手段の維持・確保に向けた住民・利用者、バス事業者、行政による意見交換会の実施地区数	2地区 (令和2年度)	7地区 (令和5年度)	10地区		
	せんだい都市再生まちづくり団体の認定数	—	合計3件 (令和3～5年度)	1件		
遊休不動産のリノベーション事業の件数	平均1件/年 (平成30年度～令和2年度)	合計3件 (令和3～5年度)	1件			

62 クロス・センダイ・ラボによる公民連携推進事業

担当: まちづくり政策局

事業概要	公民連携の窓口である「クロス・センダイ・ラボ」において民間企業などからの提案を一元的に受け付け、行政とは異なる視点、ノウハウ、アイデアなどを活用しながら、複雑化・多様化する行政・地域課題の解決に向けた連携を推進するほか、AI、IoT、自動走行、ドローンなど近未来技術の実証実験の円滑な実施を支援します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○クロス・センダイ・ラボの推進：受け付けた案件から、連携事業7件、実証実験4件が実現した他、令和4年3月から新たに、実証費用を仙台市が負担する「課題設定型実証公募」を開始し、本実証を経て開発された製品を随意契約できる制度を新設した		
評価の理由	連携事業・実証実験ともに前年度と同程度の件数を実現できた。また、提案者が設定した課題に基づく提案に加え、本市が設定した課題への提案の募集を2度実施し、公民連携の推進に積極的に取り組むことができた。		

63 地域づくりパートナーサポート事業

担当:市民局

事業概要	誰もが安全安心に暮らし続けられるまちの実現に向けて、地域コミュニティの中核を担う町内会の支援拡充を図るとともに、地域団体やNPO、事業者など多様な主体が地域の実情に応じて協働して行う取り組みを推進します。また、仙台市市民活動サポートセンターの運営や各種事業を通じ、協働の理解促進、交流や情報発信の支援などに取り組み、より多くの市民に協働まちづくりの輪を広げていけるような環境づくりを図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	プロジェクトの展開、地域団体などの強化支援		
	地域情報の発信強化・協働の理解促進		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトの展開、地域団体などの強化支援：地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業7件、市民協働事業提案制度4件、地域課題解決プロボノ活用2件、まちづくりコーディネーター派遣2件、町内会活性化講座（基礎編・相談会）計8回、各市民センターにおける地域団体間のネットワーク強化等事業19件の実績 ○地域情報の発信強化・協働の理解促進：市民活動サポートセンターにおいて、市民活動・協働に関する情報提供や相談対応、多様な主体が参加する交流会の開催など、協働に関する理解促進や機会創出に係る事業を実施 また、協働ナビゲーションサイトにおいて、市民活動・協働に関する各種支援施策、協働実践事例等の情報を提供した他、定年退職者向け地域活動参加促進リーフレットの配付、不動産関係団体との連携による町内会加入促進広報を実施 		
評価の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合及び対面型の行事は当初の計画から内容を一部変更したが、地域づくりパートナープロジェクト推進助成件数は目標値を上回り、その他の事業も概ね順調に進捗した。		

64 市民センター整備事業

担当:市民局

事業概要	地域活動や生涯学習活動、市民の交流拠点である市民センターについて、中学校区を基準として計画的に整備や修繕を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	将監：複合化改築工事		
	水の森・東中田：大規模修繕工事		
	沖野・南中山：大規模修繕工事		
		高森：大規模修繕設計・工事	
		貝ヶ森・松陵：大規模修繕設計・工事	
			高砂・黒松・長命ヶ丘：大規模修繕設計
		旭ヶ丘別棟：新築設計・工事	
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○将監 複合化改築工事：完了 ○水の森・東中田 大規模修繕工事：完了 ○沖野・南中山 大規模修繕工事：沖野は令和4年8月完了予定、南中山は令和4年10月完了予定 ○高森 大規模修繕設計・工事：設計完了 ○旭ヶ丘別棟 新築設計・工事：旭ヶ丘駅前公共施設整備基本計画策定 		
評価の理由	関係部署との調整や地域説明を行い、概ね予定通りに進んだ。今後も引き続き、施設の長寿命化に向けた大規模修繕などを計画的に進める。		

65 コミュニティ・センター整備事業

担当:市民局、各区

事業概要	地域における活動・交流の拠点であるコミュニティ・センターについて、小学校区を基準として計画的に整備や修繕を実施します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	川平・川前・蒲町・虹の丘：大規模修繕工事	原町・袋原・住吉台・鶴が丘：大規模修繕設計・工事	岡田・沖野・大野田別館・人来田・南光台東：大規模修繕設計・工事 遠見塚・芦の口：大規模修繕設計 小松島：改築設計
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○川平・川前・蒲町・虹の丘 大規模修繕工事：完了 ○原町・袋原・住吉台・鶴が丘 大規模修繕設計・工事：設計完了		
評価の理由	地域と連携した対応に努めており、概ね予定通りに進んだ。 今後も引き続き、施設の長寿命化に向けた大規模修繕などを計画的に進める。		

66 地域交通運行確保・運行支援事業【再掲】

担当:都市整備局

事業概要	市民が暮らしやすいと感じるまちを実現するために、現行の路線バスの維持に努めながら、市民協働による乗合タクシーの導入など、地域に根ざした持続可能な移動手段の確保に向けた取り組みを行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	住民・利用者、バス事業者、行政による意見交換会の実施	地域交通の導入支援・運行維持対策支援の実施	
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○意見交換会の実施：宮城野区田子・余目地区、宮城野区岡田・鶴巻地区、若林区沖野・六郷地区、太白区生出地区、泉区泉西部地区の5地区において、令和2年度に行った移動実態調査の報告や各地域の実情にあった移動手段に関する意見交換会を実施した他、太白区郡山地区において、通勤や通学、買い物、通院など日常生活における移動実態を把握するアンケート調査を実施 ○地域交通の導入支援・運行維持対策支援の実施：市民協働による地域の移動手段確保に向け、宮城野区燕沢地区、青葉区新川地区、太白区坪沼地区、太白区秋保地区、太白区青山地区、太白区生出地区の6地区に対し、技術的・財政的支援を実施		
評価の理由	高齢化の進展等の理由により、地域交通を運営する住民組織の担い手の確保が難しいことに加え、コロナ禍による外出機会の減少や利用促進に向けた各種イベントの開催見合わせなどにより、利用者が伸びない状況があったものの、小学校でのPR（燕沢）や広報誌での呼びかけなど、各地区で利用促進に取り組んだことにより、全地区で目標収支率を達成した。		

67 まち再生・まち育て活動支援事業

担当:都市整備局

事業概要	地域の実情や特性を生かした魅力的なまちづくりに戦略的に取り組むため、地元の住民や事業者などによるエリアマネジメント活動を支援するとともに、都心における低未利用地の改善方策の検討を行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○地域のエリアマネジメント活動支援：以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒井東地区では、都市再生特別措置法の改正で新設された「滞在快適性等向上公園施設設置管理協定制度」を活用するため都市再生整備計画の変更を行った 長町地区では、協議会の活動を支援するためのまちづくりアドバイザーを派遣した他、杜の広場公園において、屋外イベント開催支援補助金を活用し、長町夜市（台湾屋台を再現）を開催 仙台駅東地区では、宮城野通でのモビリティ社会実験の実施や榴岡公園利活用社会実験の実施を支援するとともに、まちづくり協議会を「せんだい都市再生まちづくり団体」に認定 肴町公園周辺地区では、まちづくり協議会の設立を支援するとともに、エリアビジョンの作成及び肴町公園での小規模拠点整備社会実験、新型コロナウイルスの影響に対応するための道路占用特例を活用したテラス席設置を支援 <p>○低未利用地の改善方策の検討：仙台駅東地区において、土地区画整理事業で確保された公園予定地を公園整備着手まで予約制駐車場として活用し、その収益の一部で地域貢献（防犯カメラなどの設置を想定）する取り組みを支援</p>		
評価の理由	エリアマネジメント活動支援について着実な進捗が図られ、低未利用地の改善方策についても1地区の検討を進めた。		

68 ストック活用型都市再生推進事業

担当:都市整備局

事業概要	市街地において、にぎわい創出や回遊性の向上を図るとともに、懐の深い都市空間を形成するため、まちづくりのプレイヤーと連携し、遊休不動産のリノベーションや公共空間の利活用を推進するとともに、様々な機会を捉えた積極的な情報発信を行います。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	△コロナ		
令和3年度の主な実績	<p>○遊休不動産のリノベーション事業の支援：大町地区において、リノベーションまちづくり実行委員会メンバーによるマンションからオフィス等へのリノベーション事業1件を支援</p> <p>○公共空間の利活用の支援：0件</p> <p>○情報発信・研修などの実施：国土交通省技術審議官による職員向けの講演会を開催</p>		
評価の理由	遊休不動産のリノベーション及び研修の実施は予定通り行うことができたが、公共空間の利活用支援については、緊急事態宣言等の発出を受け、民間実施主体の判断により全てのイベントの開催を見送り、代替開催も困難であった。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

④ 地域協働プロジェクト

② 地域づくりパートナーシップ推進

目標	地域によって異なる課題にきめ細かく対応するため、地域団体やNPO、事業者など多様な主体が持つ力を、地域の課題解決やにぎわいづくりなどに活かす仕組みづくりを推進します。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	既存・新築マンション等訪問延べ件数	28箇所 (令和元年度)	60箇所 (令和5年度)	28箇所		
	「先端技術を活用した宮城地区西部の課題解決計画」に基づく事業の延べ実施件数	—	15件 (令和4年度)	6件		
	東部沿岸地域の協議体への参加団体数	10団体 (令和2年度)	15団体 (令和5年度)	13団体		
	「小さくとも未来へつながる連携」に関する新規連携延べ件数	—	5件 (令和5年度)	5件		
泉中央地区での地域活性化事業の開催件数(いずみハロウィンや七北田公園を活用したイベント事業)	2件 (令和2年度)	5件 (令和5年度)	2件			

69 マンション等コミュニティ強化事業

担当: 青葉区

事業概要	区中心部において町内会等の地域コミュニティ形成が課題となっているマンションなどに向けて、町内会形成の働きかけを行います。コミュニティ強化に向け、市政情報の発信や町内会活動の支援を行うため、地域の施設に職員が定期的に出向き、地域との連携を深める機会を創出します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	町内会形成の働きかけ、町内会活動支援		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○町内会形成の働きかけ、町内会活動支援：区中心部町内会未加入（未結成）マンションのうち24棟を選定し、町内会加入・結成について働きかける訪問を実施した他、新築マンション情報を収集し、大手デベロッパー4社に対して町内会加入・結成に向けた協力を依頼 また、区中心部連合町内会長5名により組織する「マンションコミュニティ形成検討会」を令和4年3月に開催し、今年度の報告及び次年度への計画を協議した		
評価の理由	コロナ禍ではあったが、訪問時期を考慮しながら、ほぼ予定通りに進めることができた。		

70 先端技術を活用した宮城地区の課題解決事業

担当:青葉区宮城総合支所

事業概要	少子高齢化や人口減少に起因する地域課題が山積する宮城地区西部において、「先端技術を活用した宮城地区西部の課題解決計画」に基づき、ICTなどの先進的な技術によって様々な地域課題の解決に取り組みます。		
年次計画	令和3年度 地域課題検討会議の開催 意見交換・事業の実施についての合意形成 「先端技術を活用した宮城地区西部の課題解決計画」に掲げる事業の推進	令和4年度 今後の展開の検討・実施	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○地域課題検討会議の開催 意見交換・事業の実施についての合意形成：4回開催 ○「先端技術を活用した宮城地区西部の課題解決計画」に掲げる事業の推進：計画に掲げる8事業のうち6事業を実施（残りの2事業についても、情報収集に努めるとともに、地域課題検討会議の中でも意見交換を行った）		
評価の理由	地域の方々と協議を重ねながら、地域課題解決に向けた取組みを推進することができた。		

71 海浜エリア活性化事業【再掲】

担当:文化観光局、宮城野区、若林区

事業概要	東部沿岸地域において、東日本大震災の記憶の継承と発信を行うとともに、地域の豊かな自然など魅力ある資源を活用しながら、海辺のにぎわいづくりを進めます。また、集団移転跡地利活用事業者や地域住民・活動団体などと緊密に連携し、地域の特性を活かした魅力のネットワーク化など持続的な回遊性を高め海浜エリアの活性化を図る事業を推進します。		
年次計画	令和3年度 各種リサーチの実施 地域住民・地域活動団体・防災集団移転跡地利活用事業者などとの連携 桜植樹、来訪環境の整備、「新浜みんなの家」「なかの伝承の丘」の活用・発信支援 ホームページ等による海辺の魅力の発信	令和4年度	令和5年度 交通資源実証実験
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○各種リサーチの実施：海浜エリアの施設やイベント来訪者を対象に、来訪目的や交通手段についてアンケートを実施（8月9日～11月14日、回答者数533名）し、移動パターンや交通課題などを分析・把握 ○地域住民・地域活動団体・防災集団移転跡地利活用事業者などとの連携：地域を主体とする荒浜の海辺検討委員会と深沼の賑わい創出の検討を実施した他、新浜地区において、地元町内会によるグラウンド・ゴルフ場及び体験農園の運営支援を実施 この他「仙台海手ネットワーク」において、コロナ禍での各参加団体の状況や課題、共同で行うイベント企画等について意見交換を3回実施 ○桜植樹、来訪環境整備、「新浜みんなの家」「なかの伝承の丘」活用・発信支援：蒲生北部地区での桜植樹、蒲生日和山付近へのトイレ新設のための設計、「新浜みんなの家」の施設ガイド板の設置などを予定通り実施 ○ホームページ等による海辺の魅力の発信：海辺の魅力を発信するHP作成に向けた素材やレイアウトの検討を実施		
評価の理由	地域との連携を深めたとともに、多数のアンケートの回答を得ることができたなど、事業は概ね予定通りに進捗した。なお、アンケートの結果については、エリア全体の回遊性向上を目指し、令和5年度の交通実証実験などへの活用を予定する。		

72 「小さくても未来へつながる連携」促進事業

担当: 太白区

事業概要	太白区において、複雑化・高度化する地域課題を解決するため、課題の発掘や解決の支援を行い、異業種・多分野の実践的・創造的な連携を図り、新たな価値を創出します。また、事例を紹介するリーフレットを制作し、市民・企業などに周知することで連携のプロセスの可視化・共有化を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	課題発掘、解決支援		
	リーフレットの制作・広報		
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<p>○課題発掘、解決支援：以下の通り（取り組み件数5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坪沼地区において地域包括支援センターと連携し地域交通利用促進を図った他、旅行会社との連携によりモニターツアーを実施し交流人口の拡大を図った ・生出地区において干し柿やイチジクの活用として地域の授産施設等と連携した商品開発を支援した他、まちづくり法人と連携し都市部住民を対象に農作業を主とした交流事業を支援 ・西中田地区において宮城大学と連携し地域資源である古木カヤを活用する商品開発を支援 <p>○リーフレットの制作・広報：3件</p>		
評価の理由	地域活性化や地域資源の活用に課題を抱える地域において、新たな連携主体の開拓やマッチングを行い、地域交通乗車率の向上や商品開発などの成果につなげることができた。また、支援対象地域の拡充が図れた。令和5年度までの3年間で新規連携件数5件という目標値に対し、芳しい進捗となった。		

73 泉中央地区活性化事業

担当: 泉区

事業概要	泉中央駅前広場や七北田公園において、周辺事業者や関係団体と連携しながら、にぎわいづくりのイベントを開催するなど、泉中央地区の活性化に資する取り組みを進めます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	泉中央地区での地域活性化事業実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○泉中央地区での地域活性化事業実施：周辺事業者とともに、泉中央駅前広場にてハロウィンイベント「いずみハロウィン」を実施した他、七北田公園を活用した「IZUMIパークデイ」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずみハロウィン（助成金交付） 10月15日～10月31日、ハロウィン風のイルミネーション装飾により、来場者が楽しむことができる雰囲気演出 ・IZUMIパークデイ（助成金交付及び名義後援・来場者数約2,000人） 7月31日～8月1日、キッチンカー及び飲食屋台などの出店やイルミネーション装飾により、七北田公園を利活用 		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を踏まえつつ、計2回の事業を実施できた。今後も感染拡大状況などを見極めつつ、周辺事業者等と連携し、当事業を通じてにぎわい創出を図る。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

④ 地域協働プロジェクト

③ ユースチャレンジ推進

目標	若者の主体的なチャレンジを応援し、まちづくりや地域課題の解決に生かすため、地域の将来を担う若者の人材育成や若者の活動に対する助成などに取り組みます。					
総括	一部で遅れが生じた事業はあるが、概ね計画通り進捗した。					
数値 目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	仙台まちづくり若者ラボの参加者数	30人 (令和2年度)	40人 (令和5年度)	33人	/	/
	青葉区における学生団体と地域活動の延べマッチング数	2件 (令和元年度)	5件 (令和5年度)	1件	/	/
	みやぎの・まちづくり若手人材育成セミナー受講生が取り組む地域活動の件数	—	2件 (令和5年度)	— ※	/	/
	大学と若林区の延べ連携事業件数	—	4件 (令和5年度)	2件	/	/
	若林区における学生と地域が協働で取り組む地域活動の件数	—	2件 (令和5年度)	0件	/	/
	太白区における地域と大学とのマッチングによる支援団体数	1団体 (令和2年度)	基準値を維持	1団体	/	/
	太白区における東北工業大学との共同講座数	1件 (令和2年度)	基準値を維持	1件	/	/
	いずみ絆プロジェクト支援事業の助成件数	9件 (令和2年度)	10件 (令和5年度)	14件	/	/
大学連携地域づくりによる団体間の交流促進事業の延べ開催回数	3回 (令和元年度)	5回 (令和5年度)	5回	/	/	

※令和3年度及び令和4年度はセミナー受講期間としており、令和5年度に取り組みを実施予定。

74 若者が活躍するまちづくり事業

担当:市民局

事業概要	若者の発想や活動をまちづくりに生かしていくために、若者版・市民協働事業提案制度や参加型プログラムの実施などを通じて、将来にわたって若者に選ばれ、若者が活躍することが持続していくまちの実現に取り組みます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	若者版・市民協働事業提案制度の実施		
	仙台まちづくり若者ラボの実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○若者版・市民協働事業提案制度の実施：若者団体による事業提案を2事業採択し、市と協働で取り組むことにより、若者の発想を生かしたまちづくりを推進 ○仙台まちづくり若者ラボの実施：19歳から35歳の計33名の参加者が、「自分ごと」として関われるまちづくりに関するテーマを設定し、ワークショップやフィールドワークといった実践型プログラムのプロセスや成果を発信することで、まちづくり活動の担い手となる若者の発掘・育成を行った ○若者の社会参加の促進：実行委員会構成団体として本市が参加する「仙台若者アワード」において、参加10団体のこれまでの優れた取り組みの表彰や活動のサポートを行い、より活躍できる環境づくりを通じた若者の社会参加を促進 		
評価の理由	各実施事業において、一定の参加数を確保できたことはもとより、若者が主体的に考え・動くフィールドの提供や実際の活動に対するフォローを着実に行うことができた。今後も引き続き、各事業を通して、若者の発想や活動をまちづくりに生かし、将来にわたって若者に選ばれ、若者が活躍することが持続していくまちの実現に取り組む。		

75 学生の参加による地域づくり推進事業

担当:青葉区

事業概要	大学や専門学校が多く立地する青葉区において、より多くの地域と学生を結び付け、学生の地域コミュニティ活動への参加を促進することにより、地域コミュニティの活性化につなげます。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	学生団体・地域団体双方へのPR、希望団体間のマッチングの実施		
	事業のあり方の継続検討		
進捗状況	△		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○学生団体・地域団体双方へのPR、希望団体間のマッチングの実施：マッチング実績1件（12月）、学生団体登録数3件の他、新年度版リーフレット2種類を作成 ○事業のあり方の継続検討：事業PRの場や対象となる団体について検討 		
評価の理由	事業のあり方の継続検討においては、柔軟に様々な機会を捉えることで、学生団体の登録数増につながったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域団体のイベントなどが減少し、マッチング数は伸びなかった。今後は広報により力を入れ、マッチング数の増加と、併せて学生団体の登録数の増加に努める。		

76 みやぎの・まちづくり若手人材育成支援事業

担当:宮城野区

事業概要	次代を担う若手人材の育成を目的として、セミナーやワークショップ開催等を通したまちづくりの知識やノウハウの蓄積を図るとともに、地域の若手同士の交流の機会を創出し、ネットワークづくりを促進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	セミナー・ワークショップの開催、地域活動の実践		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○セミナー・ワークショップの開催、地域活動の実践：セミナー・ワークショップを3回開催した他、年度末にチームごとの発表会を実施 ※2年1クール（令和3～4年度）の受講としており、受講後（令和5年度）に地域活動の実践を想定		
評価の理由	新型コロナウイルスの影響により、セミナーなどがオンライン開催となるが多かったが、当初の予定通りの回数を実施できた。		

77 わかばやし地学連携推進事業

担当:若林区

事業概要	令和5年4月に開設される東北学院大学五橋キャンパスと、土樋キャンパスに集う約11,000人の学生等を核として、地域や企業との多様な連携・協力、地域と共生する大学づくりの取り組みを支援するとともに、地域の課題解決や経済の活性化を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	先進地視察		
	大学・地域・区との意見交換会	連携・協働構築の推進	
	大学・区との連携事業の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	○先進地視察：12月に早稲田大学と周辺商店街、令和4年2月に工学院大学と十二社商店親睦会の関係者とオンラインでつなぎ、それぞれの先行事例を学ぶとともに、荒町・連坊地区との意見交換を実施 ○大学・地域・区との意見交換会：11月と令和4年3月に対面で開催した他、オンラインを含め、7回の意見交換会を開催 ○大学・区との連携事業の実施：7月に東北学院大学地域構想学科の柳井教授を招き、地域づくり担当職員研修を実施		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により現地視察を中止するなどの影響を受けながらも、オンラインを活用しながら、事業は概ね順調に進捗した。 今後に向けて、東北学院大学が令和3年度に実施した「仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業課題調査検証助成事業」の調査結果を活用し、大学・地域との連携モデル事業を計画中である。		

78 たいはく若者まちづくりフォーラム事業

担当: 太白区

事業概要	太白区において、太白区まちづくり推進協議会との共催事業として、若者のまちづくりに対する意識の高揚とまちづくりの担い手となる人材の育成及び地域のまちづくり活動を推進します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と大学とのマッチングによる支援団体数：1団体 東北工業大学と生田地区まちづくり委員会とのマッチングによる覚書に基づき、学生が空き家等古民家の改修やワークショップの開催などを行った また、令和4年度から学生の活動エリアに加わる長町地域について、連携先となる一般社団法人ながまちマチキチと「長町地区のまちづくりにおける連携・協力等に関する覚書」を締結 ○東北工業大学との共同講座：1件 東北工業大学と連携し、全学部の1、2年生と一部の3、4年生を対象とした共同講座（単位取得可能）を実施、参加人数は延32名 		
評価の理由	地域と大学とのマッチングでは、目標値を達成するとともに新たな活動エリアに関する覚書を締結することができた。東北工業大学との共同講座についても目標値を達成し、参加対象者を3・4年生まで拡大することができた。また、受講者アンケートにおいて「まちづくりへの関心が高まった」という意見が回答のほとんどを占めていた。		

79 大学連携地域づくり事業

担当: 泉区

事業概要	地域課題の解決や活力ある地域づくりを進めるため、泉区内及び近隣の計6大学、泉区まちづくり推進協議会、泉区で締結している「仙台市泉区における大学と地域との連携協力に関する協定書」に基づき、大学が地域と連携して取り組む地域づくり活動を支援します。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
進捗状況	◎		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○いずみ絆プロジェクト支援事業の実施：6大学計14団体が参加、地域課題解決のために実施した活動（高齢者支援、子育て支援、地域支援など）に対して支援を実施 また、それぞれの団体が実施した活動について泉中央駅ビルでパネル展示等を行い、市民への周知を図った ○団体間の交流促進事業の実施：6大学より各1名の学生が集い、泉西部地区の体験型観光施設（パラグライダーやジップラインなど）への取材を実施し、泉西部地区の情報発信ウェブサイト「IZUMI WEST」で発信する記事作成に取り組んだ（事前準備や取材当日を含め、計5回の交流会を実施） 		
評価の理由	「いずみ絆プロジェクト支援事業の実施」については、実施計画上掲げる令和5年度時点の目標値（10件）を大きく上回る14件となった。「団体間の交流促進事業の実施」は、実施手法を団体同士の交流会の開催から、6大学から集まった学生同士の交流に改めたことで、単発での座談会ではなく、泉西部地区の情報発信という目的を持った交流を図ることができ、交流会の開催も目標値を達成することができた。		

チャレンジプロジェクト 自己評価シート

④ 地域協働プロジェクト

④ 西部地区活性化

目標	人口減少・少子高齢化などの課題を抱える仙台市西部地区の活性化を図るため、豊かな地域資源を生かし、交流を活発化させる取り組みを行う地域団体を支援するなど、地域主体のまちづくりを進めます。					
総括	全ての事業において着実に進捗した。					
数値目標	項目	基準値	目標値	実績		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作並・新川地区活性化連絡協議会の実施事業数	—	10件 (各年度)	10件	/	/
	仙台萬本さくらプロジェクト実行委員会の桜の植樹数	6,000本 (令和2年度)	10,000本 (令和5年度)	1,500本	/	/
	生出地区活性化事業の各支援団体における実施事業件数	6件 (令和元年度)	基準値を維持	8件	/	/
	秋保地区活性化事業の各支援団体における実施事業件数	4件 (令和元年度)	基準値を維持	2件	/	/
	泉西部地区まちづくり懇談会の開催件数及びワーキンググループの設置件数	懇談会：1件(令和2年度) ワーキンググループ：1件(令和2年度)	基準値を維持	懇談会：1件 (書面開催) ワーキンググループ：1件	/	/
泉西部地区情報発信サイトの閲覧回数	—	5,000アクセス/月 (令和5年度)	【平均】2,319アクセス/月 【最高】2,781アクセス/月	/	/	

80 宮城地区西部活性化事業

担当:青葉区宮城総合支所

<p>事業概要</p>	<p>作並・新川地区や青野木・大倉地区など宮城地区西部において、地域の取り組みが円滑に進むよう活動を後押しするとともに、新たな地域の担い手の発掘と育成、町内会などの活動力の強化、地域内外の市民団体や企業などとの連携のコーディネートを通じて、地域の総合的な活動力の向上を図ります。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>作並・新川地区活性化連絡協議会と連携した活性化事業の展開</p>			
<p>仙台萬本さくらプロジェクト実行委員会の活動支援</p>			
<p>作並温泉郷千年桜プロジェクト委員会の活動支援</p>			
<p>大倉ダムの魅力発信実行委員会の活動支援</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>○</p>	<p></p>	<p></p>
<p>令和3年度の主な実績</p>	<p>○作並・新川地区活性化連絡協議会と連携した活性化事業の展開：地域周遊のための案内看板の設置や観光マップの作成、作並小学校新川分校跡施設でのキャンプ事業などの取り組みを支援 ○仙台萬本さくらプロジェクト実行委員会の活動支援：青野木・大倉地区を中心としたエリアでの、桜の植樹会などの取り組みを支援 ○作並温泉郷千年桜プロジェクト委員会の活動支援：作並温泉旅館が立地する国道48号線沿いでの、桜の植樹等の取り組みを支援 ○大倉ダムの魅力発信実行委員会の活動支援：ゴールデンウィークの期間中に、約40歳の鯉のぼりをダムの堤体に掲揚するイベントの活動を支援</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>コロナ禍のため参加者を限定するなど、開催規模を抑えた内容にはなったものの、それぞれの実行委員を主体とした活動を着実に支援することができた。</p>		

81 生出地区活性化事業

担当:太白区

<p>事業概要</p>	<p>生出地区において、生出地区まちづくり委員会の農業などを基軸とした活動について、大学などとの連携により活動を支援します。また、坪沼地区において、市民農園などの活用により主体的に課題解決に当たっている地域諸団体の活動を継続的に支援します。</p>		
<p>年次計画</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>生出地区まちづくり委員会・やるっちゃツボヌマなどの活動支援</p>			
<p>進捗状況</p>	<p>◎</p>	<p></p>	<p></p>
<p>令和3年度の主な実績</p>	<p>○生出地区まちづくり委員会・やるっちゃツボヌマなどの活動支援：以下の通り ・活動拠点整備（東北工業大学と連携したトイレ囲い制作）の支援 ・まちづくり法人と連携し都市部住民を対象に農作業を主とした交流事業支援 ・干し柿やイチジクの活用として地域の授産施設等と連携した商品開発支援 ・生出地区複合施設建設に係る地元調整など ・栽培指導型農園等運営支援 ・地域主体のイベント（田舎の収穫祭、産直市等）の開催支援 ・旅行会社と連携したモニターツアーの実施による交流人口拡大推進 ・坪沼小跡施設利活用事業に係る地元調整など</p>		
<p>評価の理由</p>	<p>コロナ禍により、従前の田植えなどの地域資源を生かした交流事業や地域を代表するイベントが中止となる中、旅行会社やまちづくり法人、授産施設など新たな連携主体と地域をつなぎ、交流人口拡大促進や地域主体のまちづくり支援に取り組むことができた。また、地域活動の拠点となる複合施設の建設や小学校跡施設利活用における地域の意向に沿った調整を図ることができた。 目標値（6件）以上の事業数（8件）に取り組むことができた。</p>		

82 秋保地区活性化事業

担当:太白区秋保総合支所

事業概要	秋保地区において、地域団体などと連携し、豊かな自然や歴史などの地域の魅力を活かした交流活動や情報発信を支援するとともに、農産物の特産品化や地域の産直活動を支援するなど、観光振興による地域経済の活性化を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	野尻いぐする会・さかいの地区創生会などの活動支援		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○野尻いぐする会・さかいの地区創生会などの活動支援：以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「野尻いぐする会」では令和2年7月に新種の桜「秋保足軽紅重」（あきうあしがるべにがさね）が（公財）日本花の会に認定登録されたことに伴い、4月に桜の由来等を紹介した看板と柵を設置 ・「さかいの地区創生会」では、板風峠、森峯山等の地域資源の維持やさつま芋・里芋の植付・収穫体験、水辺の生き物探索・ザリガニ釣り体験など、家族参加型を中心とした体験イベントの企画・運営に取り組んだ 		
評価の理由	コロナ禍により、野尻いぐする会が中心となって運営する野尻交流カフェ「ぼんどころ」は令和3年度の営業を中止し、恒例としていたそば畑見フェア、新そばまつりも、企画の性質上中止せざるを得なかったが、その他の事業については、概ね順調に進捗した。		

83 泉区西部活性化事業

担当:泉区

事業概要	泉西部地区において、課題の共有や解決策の検討などを目的とした泉西部地区まちづくり懇談会を実施するとともに、課題解決に向けた取り組みを支援します。また、泉西部地区の情報発信を行い、当該地区の認知度向上や交流人口の拡大を図ります。		
年次計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	泉西部地区まちづくり懇談会の実施、ワーキンググループの開催		
	泉西部地区情報発信強化事業の実施		
進捗状況	○		
令和3年度の主な実績	<p>○泉西部地区まちづくり懇談会の実施、ワーキンググループの開催：懇談会は、開催予定時期に新型コロナウイルス感染症が拡大したため、関係者へ資料を送付し、地域に係る情報共有を実施</p> <p>また、泉西部地区情報発信ウェブサイト「IZUMI WEST」に掲載する記事の企画・投稿などを行う「ワーキンググループ」は計6回開催し、新メンバーを加えて情報交換や記事の題材探しなどを行った</p> <p>○泉西部地区情報発信強化事業の実施：「IZUMI WEST」により、当該地区の地域資源について広く情報発信を行った（概ね3,000弱アクセス/月）</p> <p>また、ワーキンググループの提案を踏まえYouTubeアカウントを作成した</p>		
評価の理由	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により参会に一部制限をかけたものの、全体としては概ね順調に進捗した。 今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況も見極めつつ、当事業を継続的に実施し、地域振興を図る。		